



スポーツの力が
盛岡の未来を創る



盛岡市スポーツ推進計画



計画期間：令和5年度(2023年度)～令和9年度(2027年度)



スポーツの力が
盛岡の未来を創る



盛岡市スポーツ推進計画



計画期間：令和5年度(2023年度)～令和9年度(2027年度)

表紙写真

- ① 令和4年(2022年)10月20日～22日、県営運動公園(みたけー)で開催されたIFSCクライミングワールドカップB&Lコンバインドいわて盛岡2022で7位に入った伊藤ふたば選手
- ② 令和5年(2023年)4月1日にオープンする「いわて盛岡ボールパーク」
- ③ 令和4年(2022年)7月24日に開催された第46回盛岡・北上川ゴムボート川下り大会
- ④ 令和4年(2022年)9月4日に開催された第32回啄木の里ふれあいマラソン大会
- ⑤ 令和4年(2022年)10月23日に開催されたいわて盛岡シティマラソン2022

※ ①、③～⑤ 市広聴広報課撮影

② 盛岡南ボールパーク(株)提供

はじめに

盛岡市は、平成25年（2013年）に策定したスポーツ推進計画において「スポーツの力が盛岡の未来を創る」をスローガンに掲げ、総合的、計画的にスポーツ推進施策に取り組んできました。

「2016 希望郷いわて国体・いわて大会」のレガシーは、国体各競技における県代表選手の活躍や「東京2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」への本市出身選手の出場へとつながりました。



さらに「テニス国別対抗戦デビスカップ」や「IFSCクライミングワールドカップ B&Lコンバインドいわて盛岡2022」等の国際大会の開催や「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ等の実現に至り、盛岡で世界トップ選手のプレーに触れることができる機会の充実が図られてきました。

しかし、令和2年（2020年）に新型コロナウイルス感染症が世界的な規模で流行し、イベントの中止や学校の休業要請、緊急事態宣言の発令など、私たちの日常生活が一変し、スポーツ活動はおろか、外出さえままならない状況に陥りました。このような状況を打開するために、無観客での試合の開催やマスクの着用、手指等の消毒の徹底、密の回避などさまざまな創意工夫のもと、徐々にスポーツ活動が息を吹き返してきました。

令和4年（2022年）には、盛岡・北上川ゴムボート川下り大会を皮切りに、啄木の里ふれあいマラソン大会、いわて盛岡シティマラソンが3年ぶりに開催され、「する」人、「みる」人、「支える」人の笑顔を目の当たりにし、スポーツの力を改めて実感しました。

これまでの計画の成果と経験を踏まえ「スポーツの力が盛岡の未来を創る」というスローガンをさらに発展・実現するために、ここに新たな「盛岡市スポーツ推進計画」を策定します。「スポーツを『する』環境づくり」「スポーツを『支える』環境づくり」「スポーツで『広がる』環境づくり」の3つを施策の柱として、関係機関・団体、そして市民一人一人と連携・協働して、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができるまちづくりを目指します。

令和5年3月

盛岡市長 谷 藤 裕 明

目次

第1章 計画の基本的事項

1 計画の背景	1
2 計画の目的	2
3 計画の位置付け	2
4 計画期間	3

第2章 前計画の評価と課題（平成30年度～令和4年度）

1 達成状況と課題	5
-----------------	---

第3章 基本方針と施策の体系

1 基本方針	27
2 施策の体系	29

第4章 取り組むべき施策

1 スポーツを「する」環境づくり	31
(1) 身近で気軽に楽しむスポーツ活動・健康づくりの推進	32
(2) スポーツ施設の整備・充実	35
2 スポーツを「支える」環境づくり	37
(1) スポーツ団体等との連携強化	38
(2) プロスポーツ等との連携	43
3 スポーツで「広がる」環境づくり	44
(1) スポーツによる交流人口の拡大	45
(2) 盛岡広域圏でのスポーツの推進及び連携	46

第5章 計画の実現に向けて

1 計画の推進体制	49
2 計画の評価	50

資料

用語解説	51
参考資料	54

本文中の「*」が付された語句は、資料の用語解説で説明しています。

第1章 計画の基本的事項

- 1 計画の背景
- 2 計画の目的
- 3 計画の位置付け
- 4 計画期間

1 計画の背景

本市は、スポーツを取り巻く環境の変化や国の動向を踏まえながら、今後のスポーツの施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成25年度（2013年度）から令和4年度（2022年度）までの10年間を計画期間とした「市スポーツ推進計画」を平成25年（2013年）3月に策定し、「スポーツの力が盛岡の未来を創る」のスローガンのもと、スポーツを「する」環境づくり、スポーツを「支える」環境づくり、「2016希望郷いわて国体・いわて大会への取組（後期計画では「大会の遺産の継承）」を基本的施策に、各種スポーツ推進施策を進めてきました。

この期間中、平成28年（2016年）10月には「2016希望郷いわて国体・いわて大会」が開催されたほか、平成30年（2018年）2月にはテニス男子の国別対抗戦「デビスカップ」、10月には「スポーツクライミング第1回コンバインドジャパンカップ」、令和元年（2019年）9月にはアジア初となる「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」（以下「RWC2019」という。）、10月には市制施行130周年を記念した「いわて盛岡シティマラソン2019」、令和2年（2020年）8月には「スポーツクライミング第33回リードジャパンカップ」、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により令和3年（2021年）7月の開催となった「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」（以下「東京2020」という。）、令和4年（2022年）9月には「日本スポーツマスターズ2022岩手大会」（以下「マスターズ2022」という。）、10月には「IFSCクライミングワールドカップB&Lコンバインドいわて盛岡2022」（以下「クライミングワールドカップ2022」という。）など、国、県、市で大型イベントが開催され、スポーツの魅力が遺憾なく発揮されました。

一方、令和2年（2020年）からの新型コロナウイルス感染症の世界規模の流行は、人々の日常生活を一変させました。さまざまなスポーツ活動は中止を余儀なくされ、外出さえはばかられる厳しい環境となり、スポーツに親しむ機会が失われていきました。

このような状況を打開するために、無観客での試合の開催や、マスク着用や手指等の消毒、密の回避などの感染症対策にさまざまな工夫を凝らしながら、日常生活を取り戻す取組が現在も続けられています。

国は、スポーツ基本法（平成23年法律第78号）に基づき、令和4年（2022年）3月に「第3期スポーツ基本計画」を策定しました。東京2020の遺産を生かしながら、スポーツの価値を高めるために、スポーツを「つくる／はぐくむ」、スポーツで「あつまり、ともに、つながる」、スポーツに「誰もがアクセスできる」の3つの視点を支える施策を展開し、総合的かつ計画的にスポーツの価値を高める施策を推進することとしており、本市においてもこれに呼応したスポーツ施策の展開が求められています。

本計画は、本市のスポーツを取り巻く環境の変化や国の動向等を踏まえながら、スポーツ基本法第2条第1項に定められた「スポーツは、これを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利である」という認識のもとに、今後のスポーツ施策を総合的かつ計画的に推進するため、新たに策定しようとするものです。

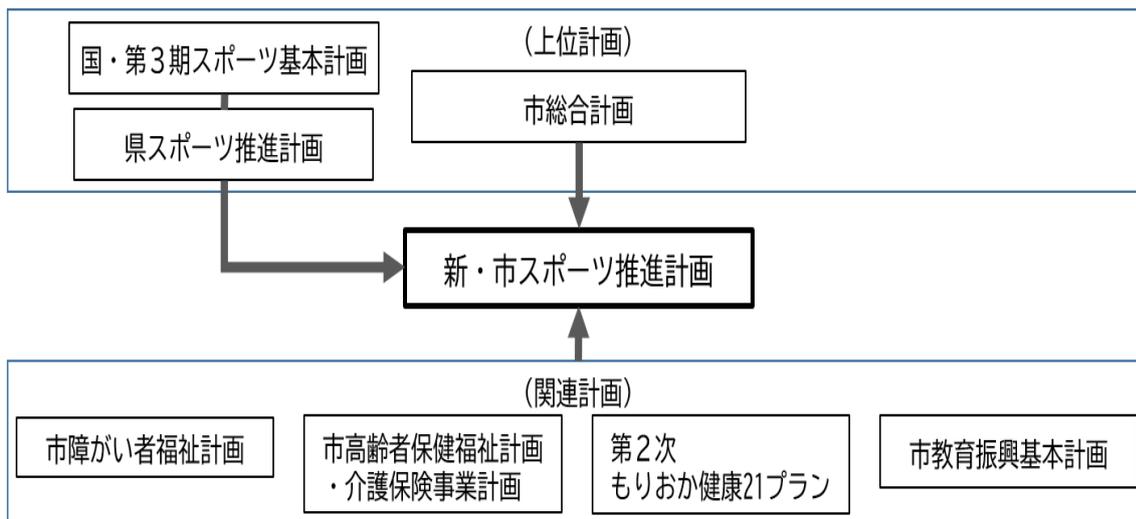
2 計画の目的

本計画は、本市のスポーツを取り巻く環境の変化や国の動向を踏まえながら、すべての市民がスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康で生き生きと暮らすことができるまちづくりを実現するため、これまでの推進計画の達成状況や課題を踏まえ、今後のスポーツ推進施策を総合的かつ計画的に推進するため、新たに策定するものです。

3 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法第10条に規定する地方スポーツ推進計画として策定するものであり、国のスポーツ基本計画を上位計画として、地域の実情に即した計画として策定するものです。また、市総合計画を上位計画とし、市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画、市障がい者福祉計画、第2次もりおか健康21プラン及び市教育振興基本計画を関連計画とする本市のスポーツ推進の基本となる計画です。

なお、本計画でのスポーツの定義は、スポーツ基本法の前文に「スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動であり」とあることを踏まえ、競技スポーツのみならず、レクリエーション活動やeスポーツ*、アーバンスポーツ*のほか、日常の中で楽しみや自身の健康づくりのために行う「身体活動」も含め、ウォーキング、散歩、階段使用など、目的を持って楽しく体を動かせば、それがスポーツであると捉えることとしています。



* 用語解説 P50 参照

4 計画期間

本計画の期間は、令和5年度（2023年度）から令和9年度（2027年度）までの5年間とします。また、計画の進捗状況や社会情勢の変化に応じて、必要な見直しを行うものとします。

	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	R10(2028)
国の第3期 スポーツ基本計画	計画期間(R4~R8)						
県スポーツ推進計画	計画期間(R1~R5)						
市スポーツ推進計画	現計画 (H25~R4)	新計画期間(R5~R9)					



左上：テニス男子・国別対抗戦デビスカップ（H30（2018）2月）

左下：RWC2019に出場したナミビア代表の盛岡合宿（R1（2019）10月）

右：スポーツクライミング第1回コンパインドジャパンカップ盛岡（H30（2018）6月）

参考：国の「第3期スポーツ基本計画」概要版

第3期スポーツ基本計画（概要）

【第2期計画期間中の総括】

- ① **新型コロナウイルス感染症：**
 - ▶ 感染拡大により、スポーツ活動が制限
- ② **東京オリンピック・パラリンピック競技大会：**
 - ▶ 1年延期後、原則無観客の中で開催

- ③ **その他社会状況の変化：**
 - ▶ 人口減少・高齢化の進行
 - ▶ 地域間格差の広がり
 - ▶ DXなど急速な技術革新
 - ▶ ライフスタイルの変化
 - ▶ 持続可能な社会や共生社会への移行

こうした出来事等を通じて、改めて確認された

- ・「楽しさ」「喜び」「自発性」に基づき行われる本質的な『スポーツそのものが有する価値』（Well-being）
- ・スポーツを通じた地域活性化、健康増進による健康長寿社会の実現、経済発展、国際理解の促進など『スポーツが社会活性化等に寄与する価値』

を更に高めるべく、第3期計画では次に掲げる施策を展開

1. 東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策

<p>持続可能な国際競技力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東京大会の成果を一過性のものでせず、持続可能な国際競技力を向上させるため、NFの強化戦略プランの実効化を支援 ・ アスリート育成バズウェイを構築 ・ スポーツ医・科学、情報等による支援を充実 ・ 地域の競技力向上を支える体制を構築 	<p>共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東京大会による共生社会への理解、関心の高まりと、スポーツの機運向上を契機としたスポーツ参画を促進 ○ オリパラ教育の知見を活かしたアスリートとの交流活動等を推進 	<p>スポーツを通じた国際交流・協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東京大会に向けて、世界中の人々にスポーツの価値を届けたスポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）事業で培われた官民ネットワークを活用し、更なる国際協力を展開、スポーツSDGsにも貢献（トーピング防止活動に係る人材・ネットワークの活用等）
<p>大規模大会の運営ノウハウの継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の影響下という困難な状況の下で、東京大会を実施したノウハウを、スポーツにおけるホスピタリティの向上に向けた取組も含め今後の大規模な国際競技大会の開催運営に継承・活用 	<p>地方創生・まちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東京大会による地域住民等のスポーツへの関心の高まりを地方創生、まちづくりの取組に活かし、将来にわたって継続・定着 ○ 国立競技場等スポーツ施設における地域のまちづくりと調和した取組を推進 	<p>スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 東京大会でも課題となったアスリート等の心身の安全、安心を育くす事案に対応するため、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 誹謗中傷や性的ハラスメントの防止 ・ 熱中症対策の徹底など安全・安心の確保 ・ 暴力根絶に向けた相談窓口の一元の周知・活用

2. スポーツの価値を高めるための第3期計画の新たな「3つの視点」を支える施策

<p>スポーツを「つくる/はぐくむ」</p> <p>社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し、最適な手法、ルールを考えて作り出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 柔軟・適切な手法や仕組みの導入等を通じた、多様な主体が参加できるスポーツの機会創出 ◆ スポーツに取り組む者の自主性・自律性を促す指導ができる質の高いスポーツ指導者の育成 ◆ デジタル技術を活用した新たなスポーツ機会や、新たなビジネスモデルの創出などDXを推進 	<p>スポーツで「あつまり、ともに、つながる」</p> <p>様々な立場、背景、特性を有した人、組織があつまり、ともに課題に対応し、つながりを感じてスポーツを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 施設・設備整備、プログラム提供、啓発活動により誰もが一緒にスポーツの価値を享受できる、スポーツを通じた共生社会の実現 ◆ スポーツ団体のガバナンス・経営力強化、関係団体等の連携・協力による我が国のスポーツ体制の強化 ◆ スポーツ分野の国際協力や魅力の発信 	<p>スポーツに「誰もがアクセスできる」</p> <p>性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違い等によって、スポーツの取組に差が生じない社会を実現し、機運を醸成。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 住民誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供 ◆ 居住地域にかかわらず、全国のアスリートがスポーツ医・科学等の支援を受けられるよう地域機運の連携強化 ◆ 本人が望まない理由でスポーツを途中で諦めることがない継続的なアクセスの確保
---	---	---

3. 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む12の施策

<p>① 多様な主体におけるスポーツの機会創出</p> <p>地域や学校における子供、若者のスポーツ機会の充実と体力向上、体育の授業の充実、運動部活動改革の推進、女性・障害者・働く世代、子育て世代のスポーツ実施率の向上 等</p>	<p>② スポーツ界におけるDXの推進</p> <p>先端技術を活用したスポーツ施設のあり方の拡大、デジタル技術を活用した新たなビジネスモデルの創出 等</p>	<p>③ 国際競技力の向上</p> <p>中長期の強化戦略に基づく競技力向上支援システムの確立、地域における競技力向上を支える体制の構築、国・NPO・地方公共団体が一体となった国民体育大会の開催 等</p>
<p>④ スポーツの国際交流・協力</p> <p>国際スポーツ界への意思決定への参画支援、スポーツ産業の国際展開を促進するプラットフォームの検討 等</p>	<p>⑤ スポーツによる健康増進</p> <p>健康増進に資するスポーツに関する研究の充実、調査研究成果の活用促進、医療・介護や企業・関係者との連携強化 等</p>	<p>⑥ スポーツの成長産業化</p> <p>スタジアム・アリーナ整備の充実な推進、他産業とのオープンイノベーションによる新ビジネスモデルの創出支援 等</p>
<p>⑦ スポーツによる地方創生、まちづくり</p> <p>武道やアウトドアスポーツ等のスポーツツーリズムの更なる推進など、スポーツによる地方創生、まちづくりの創出の全国での加齢化 等</p>	<p>⑧ スポーツを通じた共生社会の実現</p> <p>障害者や女性のスポーツの実施環境の整備、国内外のスポーツ団体の女性役員候補者の登用、育成の支援、意識啓発・情報発信 等</p>	<p>⑨ スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化</p> <p>ガバナンス・コンプライアンスに関する研修等の実施、スポーツ団体の戦略的経営を行う人材の雇用創出を支援 等</p>
<p>⑩ スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材</p> <p>民間・大学も含めた地域スポーツ施設の有効活用促進、地域スポーツコミッションなど地域機運醸成の活用、全NFでの人材育成及び活用に関する計画策定を促進、女性のスポーツ指導に精通した指導者養成支援 等</p>	<p>⑪ スポーツを実施する者の安全・安心の確保</p> <p>暴力や不適切な指導等の根絶に向けた指導者養成・研修の実施、スポーツ安全に係る情報発信、安全対策の促進 等</p>	<p>⑫ スポーツ・インテグリティの確保</p> <p>スポーツ団体のガバナンスコードの普及促進、スポーツ仲裁・調停制度の理解増進等の推進、教育研修や研究活動等を通じたトーピング防止活動の展開 等</p>

『感動していただけるスポーツ界』の実現に向けた目標設定

全ての人々が自発的にスポーツに取り組むことで自己実現を図り、スポーツの力で、前向きで活力ある社会と、絆の強い社会を目指す

<p>📍 国民のスポーツ実施率を向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 成人の週1回以上のスポーツ実施率を70%（障害者は40%） ✓ 1年に一度以上スポーツを実施する成人の割合を100%に近づける（障害者は70%を目指す） 	<p>📍 生涯にわたって運動・スポーツを継続したい子供の増加</p> <p>（児童86%⇒90%、生徒82%⇒90%）</p> <p>📍 子供の体力の向上</p> <p>（新体力テストの総合評価C以上の児童68%⇒80%、生徒75%⇒85%）</p>	<p>📍 誰もがスポーツに参画でき、共に活動できる社会を実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 体育授業への参加を希望する障害のある児童生徒の見学ゼロを目指した学習プログラム開発 ✓ スポーツ団体の女性理事の役割を40%
<p>📍 オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会で、過去最高水準の金メダル数、総メダル数、入賞者数、メダル獲得競技数等の実現</p>	<p>📍 スポーツを通じて活力ある社会を実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ スポーツ市場規模15兆円の達成（2025年まで） ✓ スポーツ・健康まちづくりに取り組む地方公共団体の割合15.6%⇒40% 	<p>📍 スポーツを通じて世界とつながる</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ ポストSFT事業を通じて世界中の国々の700万人の人々への利益を目標に事業を推進 ✓ 国際競技連盟（IF）等役員数37人規模の維持・拡大

第2章 前計画の評価と課題

平成30年度（2018年度）～令和4年度（2022年度）

1 達成状況と課題

1 達成状況と課題

基本的施策1 スポーツを「する」環境づくり

市民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも、安全にスポーツに親しむことができるよう（公財）盛岡市スポーツ協会（以下「市スポーツ協会」という）、盛岡市スポーツ推進委員協議会、総合型地域スポーツクラブ等のスポーツ団体等と連携し、スポーツ活動を推進しました。また、ユニバーサルデザインの考え方に基づく施設利用環境の改善とともに、適切な配置計画に基づく施設の改修や整備を行います。

成果指標

指標：成人の週1回以上のスポーツ実施率*

目指す方向	平成23年度 (策定時)	平成30年度 (実績値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (目標値)	達成状況
↗	28.1%	45.3%	44.6%	44.1%	46.2%	65.0%	未達

指標：成人肥満者（BMI*25以上）の割合（40歳以上）

目指す方向	区分	平成23年度 (策定時)	平成30年度 (実績値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (目標値)	達成状況
↘	男性	31.9%	35.1%	35.6%	37.1%	37.1%	28.0%未満*	未達
	女性	23.4%	23.9%	25.2%	25.2%	24.9%	19.0%未満*	未達

評価

- ・基本施策である「ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進」に盛り込んだ施策は、概ね実施しました。成果指標である成人の週1回以上のスポーツ実施率は、増加傾向にはありますが、全国平均（56.4%）を下回っている状況で、目標とした65.0%の達成は困難な状況です。
- ・40歳以上の肥満者（BMI 25以上）の割合については、減少を目指していますが、男性は増加傾向、女性は横ばいです。全国平均（男性35.7%、女性23.0%）を上回っている状況で、目標とした数値（男性28.0%未満、女性19.0%未満）の達成は困難な状況です。

課題

- ・成果指標である「成人のスポーツ実施率」は、全国平均（56.4%）を下回り、目標の達成が困難な状況であることから、継続してスポーツに親しみ、スポーツにアクセスしやすい環境づくりを進める必要があります。また、令和2年度（2020年度）に作

* 用語解説 P51 参照

成した「アクションプラン」において、ウォーキングを核とした取組を進めており、健康づくりアプリ「MORI-WALKER*」（以下「モリウォーカー」という。）を令和4年（2022年）9月にリリースしました。スポーツ実施率の向上のために、モリウォーカーを活用して今後も継続して取り組む必要があります。

- ・スポーツ庁は、中学校の休日の運動部活動の地域移行について、令和5年度（2023年度）から取り組むこととする方針を打ち出していることから、各スポーツ団体や市教育委員会と連携し、地域移行に向けた取組を行う必要があります。

ア ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進

（ア）子どもたちのスポーツ推進

施策1 スポーツを始めたくなるきっかけづくり

- ▶「もりおか子どもスポーツクラブ*」については、市内の小学3・4年生を対象にさまざまなスポーツに触れることで運動能力の向上を目指す事業を実施しました。
- ▶プロスポーツチームの試合や全国大会等の誘致については、テニス国別対抗戦デビスカップやRWC2019、東京2020、クライミングワールドカップ2022の大規模大会の機会を活用し、ラグビーや水球、スポーツクライミングなど世界レベルのプレーに触れる機会の提供を行いました。また、プロスポーツの無料観戦の実施や各種全国大会等の開催等を支援しました。

〔評価・課題〕

- ・きっかけづくりとして、さまざまなスポーツに触れることができる「もりおか子どもスポーツクラブ」は、引き続き実施していく必要があります。
- ・スポーツを見る機会を提供し、子どもたちにプロスポーツ選手へのあこがれや感動の共有など、スポーツを始めるきっかけづくりを継続する必要があります。

施策2 スポーツに親しむ機会の提供

- ▶スポーツ・レクリエーション活動への支援については、市スポーツ推進委員協議会と連携し、指導者を派遣しました。
- ▶総合型地域スポーツクラブが実施する教室等に対しては、平成25年度（2013年度）から共催等の支援を行っているほか、イベントの周知等に協力しました。
- ▶スポーツ少年団員募集への協力については、毎年度初頭に団員募集のために市内全小学生にチラシを配布し、周知に努めました。

〔評価・課題〕

- ・子ども会やPTA等が行うスポーツ・レクリエーション行事について、指導者の派遣だけではなく、企画段階でスポーツに誘導できるような方策が必要です。
- ・総合型地域スポーツクラブが実施する事業への共催・後援については、今後も継続して実施します。
- ・スポーツ少年団の加入人数は、平成20年度（2008年度）の3,926人、競技種目は平成27（2015）～29年度（2017年度）の36種目がピークとなっており、以後、減少

* 用語解説 P51 参照

傾向にあります。今後、中学校の運動部活動の地域移行もあることから、スポーツ少年団員募集への協力を継続していく必要があります。

施策3 次世代体力・運動能力向上プロジェクトの実践

- ▶小学生の動きづくり事業については、平成29年度（2017年度）から令和2年度（2020年度）まで、市内全小学校でSAQトレーニング*の巡回指導を実施しました。協力を得られた学校では週1回15分以上のトレーニングに取り組んでいます。
- ▶スポーツ医・科学勉強会の開催については、スポーツ協会に補助金を交付し、勉強会を年2回開催。医学的エビデンスに基づくスポーツ指導への取組を実施しました。

〔評価・課題〕

- ・小学生の動きづくり事業としてのSAQトレーニングは、市内全小学校の協力のもと、今後も継続して実施する必要があります。
- ・科学的な根拠に基づくスポーツ指導をより浸透させるため、今後も小学生からの動きづくりや医・科学勉強会を継続して実施する必要があります。

施策4 保護者への意識づけや参加機会の提供

- ▶市民体育大会等、各種スポーツ大会・教室の開催については、市スポーツ協会と連携し、盛岡市民体育大会や各種大会等を開催しました。
- ▶保護者へのスポーツに関する理解を深める場として「盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」、「啄木の里ふれあいマラソン」、「いわて盛岡シティマラソン」を開催し、スポーツ機会の提供を行うとともに地域の活性化を推進しました。

〔評価・課題〕

- ・市民のスポーツ活動の機会提供として、各種大会やイベント等を開催しました。特に、令和元年度（2019年度）に開催した「いわて盛岡シティマラソン」は、スポーツイベントによる交流人口の拡大、地域の活性化に寄与しました。今後もスポーツ活動の機会提供は、継続して行う必要があります。

施策5 教育現場におけるスポーツ活動の充実

- ▶小・中学校体育連盟への運営費については、市教育委員会で助成を実施しました。
- ▶教育課程における体育活動については、市立総合プール及び市市民運動公園B&G海洋センタープールを一部の学校の授業での使用を認めるなど、市教育委員会と連携しスポーツ活動の充実に努めました。また、小学校体育連盟等が主催する大会においては、使用料を免除し活動しやすい環境を整えました。
- ▶岩手県中学校総合体育大会への派遣費用の助成については、市教育委員会で実施しました。
- ▶総合型地域スポーツクラブ等の地域の指導者を活用した部活動の推進については、令和4年度（2022年度）に総合型地域スポーツクラブ「いーはとーぶスポーツクラ

* 用語解説 P51 参照

ブ」が市民協働推進事業を活用し、中学校の部活動に指導者を派遣し、運動部活動の地域移行を見据えた取組を行いました。

〔評価・課題〕

- ・スポーツ庁は、中学校の休日の運動部活動の地域移行を進める方針を打ち出し、令和5年度（2023年度）から取り組む方針を示しています。地域移行は、指導者の育成・確保、活動場所、活動経費、用具等の課題が指摘されており、今後、市教育委員会や各関係機関と協議しながら、円滑な地域移行ができるよう進めます。

（イ）働く世代のスポーツ推進

施策1 スポーツに親しむ機会の提供

- ▶学校体育施設開放については、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の影響により使用できなかった期間もありましたが、令和3年度（2021年度）は62校109施設で実施しました。
- ▶夜間や休日のスポーツ教室については、市スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ等と連携して実施したほか、各団体が開催するスポーツ教室等の情報を市広報紙や市ホームページを利用して周知を図りました。

〔評価・課題〕

- ・学校体育施設の開放は、地域のスポーツ推進に必要であり、継続した取組が必要です。また、手続や予約の方法等、より多くの人活用できるような仕組みづくりが必要です。
- ・夜間や休日のスポーツ教室は、働く世代がスポーツに親しむ機会として必要であることから、今後も継続して実施するほか、施設を利用しないスポーツ活動機会を提供するため、モリウォーカーの周知を図る必要があります。

施策2 スポーツに取り組むための意識啓発

- ▶市民体カテストについては、国民（市民）の体力・運動能力の基礎資料を得ること、働く世代に体力測定やスポーツをする機会を提供することを目的に年2回開催しました。
- ▶市ホームページを活用したスポーツカレンダーの掲載については、年間のスポーツ行事予定表を年1回掲載しているほか、市広報紙に掲載したスポーツイベント等を、市ホームページのイベントカレンダーに掲載しました。

〔評価・課題〕

- ・商工会議所等との連携は、令和4年度（2022年度）にモリウォーカーを開発・リリースし、気軽に取り組めるスポーツとしてウォーキングを推進するほか、盛岡Value City(株)の地域電子マネー「MORIO-Pay」（以下「モリオペイ」という。）と連携したインセンティブの付与などを実施しており、更なる周知を展開する必要があります。
- ・スポーツに取り組むきっかけとなる市民体カテストは継続して実施しますが、参加者が増えるような工夫が必要です。
- ・これまでの市広報紙と市ホームページが連動した情報提供を継続します。

施策3 スポーツを通じた健康づくり

- ▶ 玄米ニギニギ体操*の普及促進については、新型コロナ感染予防の観点から現在は実施しておりませんが、長寿社会課の介護予防教室や健康増進課の健康づくり教室が継続して実施されています。
- ▶ 「もりおか健康ウォーク」や「市民総参加スポーツの集い」を開催し、市民の健康づくりやさまざまなスポーツに触れる機会を提供しました。
- ▶ 「盛岡市のウォーキングマップ」の周知拡大については、市ホームページ内で「盛岡健康づくりまとめ」サイトを作り、ウォーキングマップにアクセスしやすい環境を整えたほか、モリウォーカーにおいても同マップを活用しました。
- ▶ 町内会等が実施するスポーツ活動への参加促進については、スポーツ推進委員を派遣し、ニュースポーツ等の指導を行いました。

〔評価・課題〕

- ・関係各課が実施する各種健康教室と連携して、運動する機会の提供を継続します。
- ・「スポーツの集い」は、新型コロナ流行前までは参加者が増加しており、今後もスポーツに触れる機会の提供のため、継続して実施するとともに、さらに多くの市民が参加できるよう周知を行っていく必要があります。
- ・モリウォーカーを活用しながら、ウォーキングマップの周知や各種ウォーキングイベントの開催を継続して実施する必要があります。
- ・町内会等が実施するスポーツ活動に、指導者の派遣を行いました。指導者の派遣だけでなく、企画段階でスポーツに誘導できるような方策が必要です。

（ウ）高齢者のスポーツ推進

施策1 無理なくスポーツに親しむ機会の提供

- ▶ 高齢者スポーツ支援プログラムの作成はできませんでしたが、高齢者保健福祉計画等において介護予防の強化が掲げられ、介護予防教室等が実施されました。

〔評価・課題〕

- ・関係課等にスポーツに関する情報提供を行うことで、効率的に施策が実施できるよう連携を強化します。

施策2 スポーツに取り組むための意識啓発

- ▶ プロスポーツの試合や全国大会等の観戦への支援については、東京2020などのメガイベントに連動し、盛岡では観戦する機会の少ない世界トップレベルの選手による親善試合を開催したほか、地元プロスポーツチームのホームゲームの無料観戦などの実施により、スポーツに親しむ機会の提供を行いました。

〔評価・課題〕

- ・市民体力テストは、継続する必要がありますが、64歳以上の参加者が少ないことから、周知方法について検討が必要です。

* 用語解説 P51 参照

- ・プロスポーツチーム等の試合観戦の機会の提供は、スポーツのすそ野を広げるとともに、感動・一体感の共有等を提供する機会であることから、引き続き取り組んでいく必要があります。

施策3 スポーツを通じた生きがいづくり

- ▶「市老人スポーツ祭典」や「市ニュースポーツ講習・交流会」等の開催については、いずれも長寿社会課所管で実施しました。また、スポーツ推進委員を派遣し、ニュースポーツ等の指導を行いました。
- ▶太極拳教室等の健康増進教室の開催については、介護予防の太極拳教室、ヨガ教室を長寿社会課所管で実施しています。
- ▶「市スポーツ・レクリエーション大会」については、例年3月に開催し約150人程度が参加していましたが、令和元年度（2019年度）、2年度（2020年度）、3年度（2021年度）は新型コロナの影響で中止しました。
- ▶「はなまるシニア筋力アップ教室」等の介護予防教室の参加促進による健康寿命の延伸については、元気はなまる筋力アップ教室として長寿社会課所管で実施しています。

〔評価・課題〕

- ・健康寿命を延ばすために、スポーツの習慣化に向けウォーキングを中心に周知を図るほか、関係各課の教室等及びスポーツ推進委員協議会と連携し、高齢者が自身の体力に合わせ気軽にスポーツに親しむきっかけづくりを推進します。

Ⅱ (I) 障がい者のスポーツ推進

施策1 気軽にスポーツに親しむ機会の提供

- ▶「市障がい者スポーツ大会」や「車いすバスケットボール教室」等の開催については、盛岡市障がい者スポーツ大会実行委員会及び県障がい者スポーツ協会が主催し、各種大会や教室が実施されました。

施策2 健常者との交流の促進

- ▶市民体育大会でハンディ部門を設けるなど同一の大会に参加できる運営をしました。また、盛岡・北上川ゴムボート川下り大会や啄木の里ふれあいマラソン、いわて盛岡シティマラソンにおいても、障がい者が自分の能力に応じて参加できる大会として開催しました。

施策3 障がい者のスポーツへのニーズの把握

- ▶障がい者のスポーツ活動の状況調査・研究については、市の障がい者福祉計画において、状況調査を実施しました。
- ▶他都市における障がい者のスポーツ教室や大会等の実施状況の把握については、実施できていません。

〔評価・課題〕

- ・障がい者のスポーツ実施率の向上を進めるために、関係課や県障がい者スポーツ協会等と連携してスポーツ機会の提供をする必要があります。

（オ）生涯にわたるスポーツ推進

施策1 スポーツに親しむ機会の提供

- ▶健康教育としてのウォーキング教室の開催については、県ウォーキング協会、市ウォーキング協会、（一社）盛岡市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（以下「もりスポネット」という。）とともに「もりおか健康ウォーク」を開催しました。また、令和4年度（2022年度）にモリウォーカーをリリースし、ウォーキングを中心とした健康づくりを促進する取組を進めました。
- ▶各種健康教室の開催は、もりスポネットと連携し、スポーツに親しむ機会の提供を行いました。

〔評価・課題〕

- ・ウォーキングは、時間や場所の制約なく取り組めるスポーツであることから、モリウォーカーを活用し、いつでも、どこでも、いつまでも健康づくりに取り組める機会の提供を図ります。

施策2 市民ニーズに即したスポーツ施設の管理運営

- ▶施設ニーズの把握については、定期的にスポーツ施設の利用者アンケートを実施しました。
- ▶開館期間や時間の延長等については、利用者の要望にできるだけ応えるよう調整を行い、市民が使いやすい施設運営に努めました。

〔評価・課題〕

- ・ニーズに即した施設運営は、施設の利用率向上や効率化の上で、大変重要となることから、今後も指定管理者と連携し、スポーツ施設の効率的な運営管理について検討を行う必要があります。

施策3 学校体育施設開放事業の促進

- ▶学校体育施設開放運営委員会への支援については、運営費の補助を実施しました。今後、中学生の休日の運動部活動の地域移行の状況を注視しながら、運営委員会のあり方等も検討を行う必要があります。
- ▶夜間照明施設の維持管理については、不点灯率の調査を行い、不点灯率が30%超の場合に修繕を行っているほか、計画的にLED化を進めています。

〔評価・課題〕

- ・学校体育施設の開放事業は、多くの市民に利用されていることから、今後も継続して実施していく必要がある一方で、使用団体の固定化や複数の施設を重複して予約するなどの事例もあることから、問題の解消について検討する必要があります。
- ・夜間照明施設の中には、器材の一部に低濃度PCB*を使用した施設があることから、令和8年度（2026年度）までに計画的に交換を行う必要があります。また、電球のLED化も順次進めていく必要がありますが、多額の費用が掛かることが大きな課題となっています。

*用語解説 P52 参照

（カ）情報共有によるスポーツの普及促進

施策1 「する」、「観る」、「支える（育てる）」スポーツの情報発信

- ▶市ホームページを活用したサークル・クラブ等の活動の情報提供については、市主催のイベントや市スポーツ協会等の教室の情報は掲載していますが、一般のサークル・クラブ等の情報提供には至りませんでした。
- ▶スポーツ指導者の情報提供については、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブに関する情報発信を行ったほか、県内指導者の情報を発信している県広域スポーツセンターのホームページへのリンクを市ホームページに設定し、情報の提供に努めました。
- ▶市ホームページを活用した各種大会等の運営スタッフの募集については、盛岡広域スポーツコミッション*（以下「コミッション」という。）と連携し、プロスポーツやスポーツイベントのボランティアに関する情報発信を行いました。
- ▶コミッションへの情報提供については、イベント開催の情報を提供し、コミッションのホームページやスポーツパル*会員へのメールマガジンに掲載するなど連携を図りました。

〔評価・課題〕

- ・市民がスポーツ教室等の情報に気軽にアクセスできるよう、市ホームページやコミッションのホームページ等の活用継続して取り組む必要があります。

施策2 情報システムの利便性の向上

- ▶スポーツ施設の予約システムについては、太田テニスコートを除き、空き状況の確認はできるが予約はできない、または、システム自体がない状況となっています。県は、文化施設・スポーツ施設予約システムを導入する予定としており、市営施設への拡張が可能か、情報収集と情報共有を進める必要があります。

〔評価・課題〕

- ・スポーツ施設の情報システムの利便性の向上は、学校体育施設開放事業も含め、引き続き取り組む必要があり、システム構築に向けて検討する必要があります。

イ スポーツ施設の整備充実

（ア）計画的なスポーツ施設の整備

施策1 スポーツ施設の適正配置方針の見直し

〔評価・課題〕

- ・スポーツ施設の整備については、盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画（以下「アセット計画」という。）に基づいたスポーツ施設の長寿命化工事を着実に進めました。
- ・適正配置方針は、平成26年度（2014年度）から令和5年度（2023年度）までの期間であることから、令和6年度（2024年度）以降の方針について検討する必要があります。

* 用語解説 P51 参照

施策2 スポーツ振興基金の拡充

〔評価・課題〕

- ・ふるさと納税などによりスポーツ振興基金の拡充を行いました。今後も基金の拡充は継続して行う必要があります。

(イ) 新たな施設の整備

施策1 都南東部地区へのスポーツ施設の整備

〔評価・課題〕

- ・都南東部体育館（仮称）については、令和3年度（2021年度）に用地取得と地質調査、令和6年度（2024年度）に建設工事着工、令和7年度（2025年度）の供用開始を目指し整備を進めます。

(ウ) 既存施設の整備改修

施策1 市営野球場（盛岡南公園野球場）の整備

〔評価・課題〕

- ・いわて盛岡ボールパークは、令和5年（2023年）4月1日の供用開始に向け、整備を進めています。単なる野球場ではなく、野球をはじめとしたスポーツやスポーツ以外でも多目的に利用できる「ボールパーク」として、賑わいを創出することを目指しています。また、ネーミングライツを活用し、将来の改修費用等に充てることとしており、令和4年（2022年）10月に「きたぎんボールパーク」として契約を締結しました。

施策2 河川区域に有する野球場適正配置方針の検討

〔評価・課題〕

- ・河川区域にある野球場の移転には広い土地の確保が必要であるため、具体的な検討には至っていません。今後も代替候補地の情報収集を行います。

(I) ユニバーサルデザインの推進

施策1 既存施設のバリアフリー化の推進

〔評価・課題〕

- ・スポーツ施設においては、長寿命化工事が予定されている施設を除き、全てのスポーツ施設のトイレの洋式化を行いました。また、武道館大規模改修において、トイレの洋式化のほか、スロープや階段昇降機を設置し、バリアフリー化を行いました。今後も既存施設の長寿命化工事に当たっては、バリアフリー化を継続して行う必要があります。

施策2 ユニバーサルデザインの推進

〔評価・課題〕

- ・いわて盛岡ボールパークの整備に当たり、場内掲示等においてユニバーサルデザインを取り入れました。今後の施設整備・改修においても継続して取り入れる必要があります。

（オ）盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画の推進

施策1 都南・飯岡体育館の整備方針の策定

〔評価・課題〕

- ・各地域からの要望を踏まえ、集約化体育館の建設場所や規模の検討を行っています。

施策2 武道館大規模改修の実施

〔評価・課題〕

- ・平成30年度（2018年度）に大規模改修工事を実施しました。

施策3 総合プール大規模な修繕の実施

〔評価・課題〕

- ・令和2年度（2020年度）に大規模な修繕を実施しました。



【左上から時計回りに】都南体育館（S47（1972）設置）、飯岡体育館（S49（1974）設置）、総合プール（H11（1999）設置）、武道館（S56（1981）設置）

基本的施策2 スポーツを「支える（育てる）」環境づくり

スポーツ団体等と連携して各種事業を展開し、市、市スポーツ協会、競技団体、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等の役割を明確にして、市民のスポーツ活動がより活発に展開されるようスポーツ団体等との連携を強化し、スポーツを支える環境づくりを進めました。また、プロチームやプロチームを支援する市民との連携により、スポーツを通じた元気なまちづくりを進めています。

成果指標

指標：市が共催・後援する事業の数

目指す方向	平成23年度 (策定時)	平成30年度 (実績値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (目標値)	達成状況
↗	170 事業	222 事業	201 事業	117 事業	175 事業	270 事業	未達

指標：総合型地域スポーツクラブの数*

目指す方向	平成23年度 (策定時)	平成30年度 (実績値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (目標値)	達成状況
↗	4 団体	7 団体	7 団体	7 団体	8 団体	24 団体	未達

指標：プロチーム等のチーム会員数*

目指す方向	区分	平成23年度 (策定時)	平成30年度 (実績値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (目標値)	達成状況
↗	グループ ジャ	1,232 人	370 人	112 人	212 人	656 人	20,000 人	未達
	ビッグ ブルズ		415 人	769 人	441 人	598 人		未達
合計		—	785 人	881 人	653 人	1,254 人	—	

評価

- ・市が共催する事業は、平成30年度（2018年度）まで着実に増加してきましたが、新型コロナの影響により、令和2年度（2020年度）からは大きく減少している状況です。「新しい生活様式」の視点でさまざまな事業を展開し、令和3年度（2021年度）には増加に転じましたが、目標達成は難しい状況です。
- ・総合型地域スポーツクラブについては、当初、国の方針に基づき中学校区に1団体という目標を設定し、クラブの増加を目指しましたが、現在は国の方針がクラブの量から質の充実に視点が見直されています。
- ・プロスポーツの会員数は各年度で変動があり、依然として目標値には達していません。今後もプロスポーツチームを応援する機運を醸成する取組を続ける必要があります。

* 用語解説 P52 参照

課題

- ・令和4年度（2022年度）からは総合型地域スポーツクラブの登録認証制度が開始されており、今後さらにクラブの役割と認知度を高める取組が必要となります。
- ・中学校の運動部活動の地域移行の検討が必要になります。この受け皿としては、市スポーツ協会をはじめ、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等が想定されます。
- ・プロスポーツは、試合会場等施設の要求水準が上がっており、これらに対応していく必要があります。今後さらに市民に親しまれ、チームと市民が感動を共有する関係性を築く必要があります。

ア スポーツ団体等との連携強化

(7) (公財) 盛岡市スポーツ協会との連携強化

施策1 事業運営に対する支援

- ▶市スポーツ協会運営事業、国民体育大会選手派遣事業への助成については、市スポーツ協会に対し事業費補助金等を交付し、市民のスポーツ活動の推進を図りました。

〔評価・課題〕

- ・市スポーツ協会は、スポーツ統括団体としての役割を果たしており、市民のスポーツ推進のために連携して各種事業に取り組んでいく必要があることから、今後も支援を継続する必要があります。

施策2 スポーツ大会等の協働推進

〔評価・課題〕

- ・市スポーツ協会と連携し、市民体育大会等の開催や合宿の受け入れを協働で行いました。各種大会やイベントの開催、合宿の受け入れは、市単独で実施することができないため、今後も市スポーツ協会と協働で取り組む必要があります。

施策3 スポーツ指導者の確保・育成等

- ▶スポーツ少年団の指導に当たる指導者を育成するため、市スポーツ協会に補助金を交付し、講習会を開催しました。

〔評価・課題〕

- ・スポーツ指導者の育成については、今後、中学校の運動部活動の地域移行が始まることから、より一層力を入れて取り組む必要があります。
- ・スポーツインテグリティ*の推進のためアスリート、指導者に対する講習等を行う必要があります。

(イ) 競技団体等との連携強化

施策1 スポーツ推進事業への共催・後援

〔評価・課題〕

- ・各競技団体等の共催・後援は、今後も継続して取り組む必要があります。

*用語解説 P52 参照

施策2 スポーツ推進審議会による計画の進行管理

〔評価・課題〕

- ・審議会を開催し、スポーツ推進計画の進行管理を行いました。また、計画の確実な実施と次期計画に向けた取組として、令和3年度（2021年度）～4年度（2022年度）を対象とした「アクションプラン」を策定し、市民の健康づくりのため「ウォーキング」に重点をおいた取組等を進めました。

施策3 スポーツ指導者の資質向上等

- ▶県が開催する講習会等の開催周知については、市ホームページから県広域スポーツセンターのホームページにリンクを設定することで周知を行いました。
- ▶スポーツ指導者リストの作成については、市ホームページから県広域スポーツセンターのホームページにリンクを設定したほか、市中央公民館の「学びの循環推進事業」において一般コースのスポーツ・健康分野及び専門コースの指導者リストを作成しました。

〔評価・課題〕

- ・競技団体が実施する講習会等は、競技団体内で周知を図るのが最善と考えます。スポーツ指導者リストの作成については、中学校の運動部活動の地域移行もあることから、市スポーツ協会や競技団体等と協力しながら取り組む必要があります。

（ウ）スポーツ推進委員との連携強化

施策1 協議会運営に対する支援

- ▶スポーツ推進委員協議会に対し、スポーツ基本法第34条に基づき事業費補助金を交付しました。

〔評価・課題〕

- ・スポーツ推進委員は、地域におけるスポーツ活動の指導や運営に携わっていることから、その活動を推進するため、今後も継続して補助を行っていく必要があります。

施策2 市民への周知拡大

- ▶機関誌「DASH!! ENJOY!!」を年1回発行し、市の施設や社会福祉施設等に配架することで普段の活動等の周知を行い、スポーツ推進委員の周知拡大を図りました。
- ▶市ホームページにおいて、スポーツ推進委員の役割や活動を紹介するページを作成し、周知を図りました。

〔評価・課題〕

- ・スポーツ推進委員は、地域スポーツに最も近い立場でスポーツ活動の指導や運営を行っていますので、今後も、スポーツ推進委員の役割等の周知を図る必要があります。

施策3 スポーツ推進委員の資質向上

- ▶新任委員を中心に、地域のニーズが高いボッチャの研修等を、スポーツ推進委員協議会主催で開催し、スポーツ推進委員の資質向上を図りました。

- ▶ 県が実施する研修や講習の情報提供を行い、参加の促進を図りました。
- ▶ ラジオ体操講習会を実施し、スポーツ推進委員の資質向上を図りました。

〔評価・課題〕

- ・スポーツ推進委員は、地域スポーツに最も近い立場でスポーツ活動の指導や運営を行っていますので、今後も研修会等を実施し資質向上を図る必要があります。

施策4 スポーツ推進委員の委嘱の見直し

- ▶ スポーツ推進委員は、各地区からの推薦と公募により選任していますが、具体的な委員数の見直しは行いませんでした。

〔評価・課題〕

- ・スポーツ推進委員の選任については、地区によっては推薦に苦慮している地区もあることから、地区ごとの委員数の見直しや公募方法について、各地区の状況を把握しながら検討する必要があります。

Ⅰ (I) 総合型地域スポーツクラブ等との連携強化

施策1 市民への周知拡大

- ▶ 市ホームページに、総合型地域スポーツクラブ市内8クラブを紹介するページを作成し、それぞれのスポーツクラブの活動にアクセスできる環境を整えました。

〔評価・課題〕

- ・総合型地域スポーツクラブは、令和4年度（2022年度）から登録認証制度が始まりました。今後、さらに認知度を高めるために周知を進めていく必要があります。

施策2 スポーツ推進事業への共催・後援

〔評価・課題〕

- ・総合型地域スポーツクラブが実施しているスポーツ活動への共催・後援を実施しており、今後も継続して共催・後援し、活動しやすい環境を整えていく必要があります。

施策3 クラブの設立や事業運営への支援

- ▶ もりスポネットと連携し、健康づくり教室の開催を委託したほか、市内8クラブの運営や活動支援について情報共有を図りました。
- ▶ もりスポネットと市が連携して、総合型地域スポーツクラブの設立や運営支援を行いました。
- ▶ もりスポネットに健康づくり教室の開催を委託したほか、ホームページ等を通じて体力向上及び健康づくりのきっかけとなる情報発信を行いました。

〔評価・課題〕

- ・総合型地域スポーツクラブの新規創設や既存クラブの事業拡充、組織基盤強化に向けて、総合型地域スポーツクラブが活動しやすい環境を整えるため、市や各種スポーツ団体とのさらなる連携が必要です。

（オ）障がい者団体との連携強化

施策1 情報提供の促進 及び 施策2 スポーツ大会等への協力

- ▶市ホームページで、市障がい者スポーツ大会の情報提供を行いました。

施策3 （一社）岩手県障がい者スポーツ協会との連携

- ▶市ホームページにおいて、県障がい者スポーツ協会が共催し、市スポーツ協会が実施する障がい者スポーツの体験会等の情報提供を行いました。

〔評価・課題〕

- ・障がい者のスポーツ実施については、大会等の参加者が減少傾向にあるとの統計結果もあり、普及促進を図る必要があることから、連携を強化していく必要があります。

（カ）企業、大学等との連携

施策1 大学の研究成果や人材等の活用

- ▶大学や民間企業から講師を招聘し、スポーツ医・科学勉強会を年2回開催しました。
- ▶スポーツ教室等の指導者として、大学や民間企業から講師を招聘しました。
- ▶いわて盛岡シティマラソンにおいてボランティア派遣等の依頼を行い、多くの協力をいただきました。

〔評価・課題〕

- ・指導者等の育成において、専門的な知識を学ぶことは重要であることから、今後も継続する必要があります。また、CSR*活動の一環として、今後もスポーツイベントに協力いただけるよう働きかけを行う必要があります。

施策2 企業への大会支援の要請

- ▶各大会における協賛支援の拡充については、各実行委員会において企業に対する要請を行ったほか、市内スポーツ施設へのチラシ配架やテレビ・ラジオ等で大会PRを実施するなど協賛支援の拡充を図りました。

〔評価・課題〕

- ・企業からの協賛支援は、拡充が難しくなっていることから、協賛に対するインセンティブの見直しなどを行いながら進める必要があります。

施策3 盛岡市立高等学校の部活動の推進

〔評価・課題〕

- ・学校教職員の配置等の課題があり、部の新規創設にはつながっていませんが、今後も継続して検討する必要があります。

* 用語解説 P52 参照

イ プロスポーツ等との連携

(ア) チーム力強化への支援

施策1 練習環境の確保・支援

- ▶ スポーツ施設の予約について、プロスポーツの利用に配慮するなど施設確保の支援を行い、プロスポーツ観戦等の機会拡大に努めました。

〔評価・課題〕

- ・ プロスポーツチームが、市のスポーツ施設を利用する場合の取組は、盛岡広域圏のスポーツ施設と連携しながら、引き続き支援をしていく必要があります。
- ・ プロスポーツチームが、所属リーグから求められている施設基準への対応について検討が必要です。

施策2 ホームゲームの開催支援

- ▶ 市ホームページにおいて、試合日程等の周知を行ったほか、コミッションと連携し、コミッションホームページ等でも周知を図りました。

〔評価・課題〕

- ・ 市のスポーツ施設でホームゲームを開催できるよう、また、観客数が増加するよう引き続き支援を行う必要があります。

(イ) 市民に愛されるチームづくりへの支援

施策1 地域活動等への参加促進

- ▶ スポーツをはじめとする地域活動等への参加促進については、もりおか子どもスポーツクラブに講師として選手を招聘したほか、盛岡さんさ踊りへの参加やブースの出店、モリウォーカーの周知等に協力いただきました。

〔評価・課題〕

- ・ 市民との触れ合いの機会を設けることで、認知度や愛着度が高まると考えられることから、今後も継続して行事や地域活動への参加について情報提供を行います。

施策2 広報活動による支援

- ▶ 市広報紙でチームの紹介やホームゲームに足を運んでもらうよう記事を掲載しました。また、市ホームページにおいて、試合日程等の周知を行ったほか、コミッションホームページ等でも周知を図りました。

〔評価・課題〕

- ・ プロスポーツチームを応援する機運を高める必要があることから、今後も市広報紙や市ホームページにおいて認知度の向上を図る必要があります。

施策3 市民による応援への支援

- ▶ 市ホームページにおいて、試合日程等の周知を行ったほか、コミッションホームページ等でも周知を図りました。

- ▶岩手ビッグブルズの盛岡市総合アリーナ開幕戦を「観戦料無料」とする際に協力するなどチームへの支援を行いました。

〔評価・課題〕

- ・令和3年度（2021年度）・4年度（2022年度）は、県の新型コロナ対策市町村総合支援事業費補助金を活用し、ホームゲーム観戦者に市特産品を贈呈するなど、市民がプロスポーツに触れる機会の促進を図りました。今後も市広報紙や市ホームページを活用したプロスポーツチームを応援する機運醸成の取組を継続して実施するとともに、市民やチームにとって、どのような支援が効果的であるか検討していきます。

基本的施策3 2016「希望郷いわて国体」「希望郷いわて大会」の遺産の継承

「2016 希望郷いわて国体・いわて大会」のレガシーを発展させ、確実に未来の世代に引き継いでいくため、市は盛岡広域市町と連携しながら、スポーツツーリズム等の取組を通じた盛岡広域圏の魅力の発信と賑わいの創出を目指しました。特にRWC2019 や東京2020、2022 北京オリンピック・パラリンピックを絶好の機会ととらえ、公認チームキャンプの受け入れやホストタウン*としての事前キャンプの受け入れ等、関係機関・団体と連携・協力して取り組みました。

成果指標

指標：スポーツ合宿・大会の受入数

目指す方向	平成23年度 (策定時)	平成30年度 (実績値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (目標値)	達成状況
↗	—	77件	102件	55件	24件	70件	未達

指標：スポーツパルの登録者数

目指す方向	平成28年度 (策定時)	平成30年度 (実績値)	令和元年度 (実績値)	令和2年度 (実績値)	令和3年度 (実績値)	令和4年度 (目標値)	達成状況
↗	400人	1,028人	1,952人	2,349人	2,654人	10,000人	未達

評価

- ・スポーツ合宿・大会の受入数については、平成30年度（2018年度）と令和元年度（2019年度）は、オリンピック等を目前に控えていたこともあり、目標を達成できるペースでしたが、令和2年度（2020年度）・3年度（2021年度）は、新型コロナの影響により激減したことから、目標の達成は難しい状況です。
- ・スポーツパルの登録者数については、平成30年度からは盛岡広域圏8市町にも対象を広げたことから、着実に増加していますが、増加幅が鈍化していることから、目標の達成は難しい状況です。

* 用語解説 P52 参照

課題

- ・広域圏の各スポーツ施設で、利用者・利用団体にとって必要な設備を補完することや、広域圏全体のスケールメリットを生かしたスポーツ大会・合宿誘致を進める等、広域圏の連携を強化する必要があります。
- ・盛岡広域圏の強みを生かし、スポーツツーリズムをきっかけとした交流人口の増加、魅力発信の取組を続けていく必要があるほか、スポーツパルのコンテンツの充実を図り、登録者の増加を図る必要があります。

ア スポーツによる交流人口の拡大

(ア) スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致

施策1 競技団体、大学、社会人実業団チームへの誘致活動

- ▶令和4年度（2022年度）から市内のスポーツ施設を使用したスポーツ合宿に対する助成制度を開始し、誘致活動を推進したほか、コミッションホームページを活用して制度の周知を行いました。

〔評価・課題〕

- ・合宿助成制度については、制度の周知を進めるほか、より利用しやすい制度の見直しを進めます。
- ・令和5年（2023年）4月に供用開始する、いわて盛岡ボールパークを起爆剤として、盛岡広域圏で連携し、大学・社会人チーム等の合宿誘致を推進する必要があります。

施策2 大会主催者への運営支援

- ▶全国大会等の大会主催者への運営支援については、一定規模のスポーツ大会が助成となるMICE*助成金の利用促進に努めました。

〔評価・課題〕

- ・施設使用料の減免は、施設の運営管理への影響もあり、慎重に検討する必要があります。

(イ) 盛岡広域スポーツコミッションを通じた取組及び岩手県との連携

施策1 広域資源を活かしたスポーツイベントの検討

- ▶いわて盛岡ボールパークの運営事業者に参加している企業が、盛岡広域圏の野球場を活用した大会・合宿誘致を検討していることから、コミッションと連携し、実現に向けて取り組みます。
- ▶既存のスポーツイベントのコラボレーションは、実現に至りませんでした。

〔評価・課題〕

- ・盛岡広域圏にあるスポーツ施設を活用することで効果的な誘致を行えることから、引き続きコミッションと連携し、大会・合宿誘致を進めていく必要があります。

*用語解説 P52 参照

施策2 スポーツ情報の周知・広報

- ▶ コミッションホームページには、盛岡広域圏のスポーツ情報が集約されていることから、地域おこし協力隊を活用して、各市町のイベントを取材し、参加者の声などイベントの魅力が伝わる情報発信を行いました。

〔評価・課題〕

- ・ コミッションホームページは、スポーツ情報に特化したサイトであることから、今後情報発信のツールとして連携します。

イ 東京2020などメガスポーツイベントへの取組

（ア）東京2020ホストタウン事業の推進

施策1 東京2020事前キャンプ等の誘致・受け入れ

- ▶ 本市がカナダ国及びマリ共和国のホストタウンとして登録されたことから、その後の誘致活動によってカナダの水球男女、7人制ラグビー男女、スポーツクライミング、マリ共和国の柔道が事前キャンプを実施することとなりました。水球男子と7人制ラグビー、柔道については、チームの都合により実現できなかったものの、水球女子とスポーツクライミングについては、事前キャンプが実現しました。
- ▶ 盛岡南公園球技場のロッカールームの改修、総合プール設備の整備などを実施しました。

〔評価・課題〕

- ・ 本市は、事前キャンプを実施できた数少ない自治体であり、2016希望郷いわて国体・いわて大会のレガシーが活かされた結果といえます。今後もトップチームの受け入れのノウハウを生かし、大会や合宿の誘致活動を積極的に進める必要があります。

施策2 ホストタウン交流イベントの実施

- ▶ オリンピックデーフェスタを2回開催したほか、メダルプロジェクト、事前キャンプによる交流など、機会を捉え、子どもたちを中心とした交流イベントを開催しました。令和3年度（2021年度）は、新型コロナの影響で参加者を限定した交流イベントとなりました。
- ▶ パブリックビューイングは、平昌2018オリンピックのカーリング女子予選「日本対カナダ」を盛岡市総合アリーナで実施しました。

〔評価・課題〕

- ・ 新型コロナの影響でイベントの実施が難しい中、工夫を凝らし、規模を縮小して実施することができました。
- ・ 新型コロナ対策が進んできたことから、今後は感染予防対策を施した上でイベントの開催ができるものと思われます。

施策3 ホストタウン周知啓発

- ▶ 歓迎のぼり旗やボールペン、缶バッジを作り、各種イベント等で配布して周知を行ったほか、市内小学生が制作した千羽鶴などでおもてなしを行いました。千羽鶴は、ホストタウン相手国がSNS*で紹介するなど、取組の周知が図られました。

〔評価・課題〕

- ・ホストタウンの周知啓発活動に、子どもたちが関わることで東京2020を身近に感じてもらおうとともに、国際交流への関心につなげました。

（イ）オリンピック選手の輩出

施策1 エイト・オリンピックズ・プロジェクトとの連携・協力

- ▶ コミッションと連携し、盛岡広域圏8市町ゆかりの選手が大会で入賞した際には祝電を送るなど、オリンピックの輩出を目指した機運醸成を行いました。
- ▶ コミッションにおいて、地域スポーツ雑誌やラジオ番組、ホームページ等を活用し、地元選手の活躍を周知したことで選手を応援する機運醸成が図られました。

〔評価・課題〕

- ・盛岡広域圏で連携することで、施設利用や練習環境整備にスケールメリットが生まれることから、今後もコミッションを通じて連携を継続します。

施策2 応援体制の構築

- ▶ コミッションと連携し、盛岡広域圏8市町ゆかりの選手について地域スポーツ雑誌やラジオ番組、市ホームページ等を活用して活躍の周知を図りました。
- ▶ パブリックビューイングは、平昌2018オリンピックのカーリング女子予選「日本対カナダ」を盛岡市総合アリーナで実施したほか、平昌2018パラリンピックのバイアスロン男子・女子を県教育委員会と県障がい者スポーツ協会との共催で、サンセール盛岡で実施しました。

〔評価・課題〕

- ・企業版ふるさと納税の活用などを、今後検討する必要があります。
- ・新型コロナ対策が進んできたことから、今後は感染予防対策を施した上でイベントの開催を積極的に検討する必要があります。

（ウ）ラグビーワールドカップ2019™日本大会（RWC2019）への取組

施策1 RWC2019 公認チームキャンプ等の受け入れ

- ▶ RWC2019の公認チームキャンプ地として、ナミビア代表チームの受け入れを行いました。また、受け入れに伴い、盛岡南公園球技場のラグビーゴールの更新やパワーラックの整備等を行いました。

* 用語解説 P52 参照

〔評価・課題〕

- ・2016 希望郷いわて国体・いわて大会のレガシーが活かされた結果といえます。今後もトップチームの受け入れのノウハウを生かし、大会や合宿の誘致活動を積極的に進める必要があります。

施策2 RWC2019 開催に向けた関係機関との連携・協力

- ▶RWC2019 の機運醸成として、本大会前のパシフィックネーションズカップのパブリックビューイングの実施や市庁舎への横断幕の掲示、市内商店街へのぼり旗の設置等による機運醸成を行いました。また、大会期間中は、県と連携し日本代表戦等のパブリックビューイング（7回で3,220人が観戦）を実施しました。

〔評価・課題〕

- ・2016 年希望郷いわて国体・いわて大会のレガシーが活かされた結果といえます。今後も県や関係機関・団体と連携して機運醸成を積極的に進める必要があります。

Ⅱ (E) 2022 北京オリンピック・パラリンピックへの取組

施策1 2022 北京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ等の誘致・受け入れ

- ▶新型コロナの影響により、誘致活動は実施しませんでした。

施策2 2022 北京オリンピック・パラリンピック交流イベントの実施

- ▶新型コロナの影響により、交流イベントやパブリックビューイングは実施しませんでした。

ウ 広域的な地域スポーツ推進及び岩手県との連携

Ⅱ (F) 盛岡広域スポーツツーリズムの牽引

施策1 盛岡広域スポーツコミッション事務局の運営

- ▶コミッションの事務局として、盛岡広域圏の各市町が行うスポーツツーリズムの支援を実施しました。

〔評価・課題〕

- ・スポーツツーリズムの取組については、今後も事務局が盛岡広域圏の連携を牽引し、スケールメリットを生かした取組を進めることが必要です。

Ⅱ (I) スポーツパル事業への取組

施策1 スポーツパル事業の広域化の推進

- ▶市のスポーツパル事業を、コミッションと連携することで対象施設を盛岡広域圏の各市町にも拡大し、広域圏の住民も会員としたことから、会員数が増加しました。

〔評価・課題〕

- ・市の事業を広域に拡大することで、事業の効果を高めることができました。今後、県営施設も対象施設とすることなど、更なる拡充を検討する必要があります。

施策2 会員募集活動の強化・会員活動機会の拡大

- ▶市内のスポーツ店に協賛を依頼し、スポーツ用品の割引券等を会員特典に加えるなど、スポーツパル制度の魅力向上を図りました。
- ▶コミッションと連携し、会員に対してスポーツイベントやプロスポーツチームのホームゲームにおけるボランティア情報を提供しました。
- ▶いわて盛岡シティマラソンや東京2020 聖火リレー等のボランティア募集と連携し、制度の周知を図りました。
- ▶会員交流会をスポーツ推進委員協議会の研修会と併せて実施したほか、ボランティア講習会を実施しました。
- ▶コミッションと連携し、コミッションホームページやメールマガジンを活用して関連イベントの周知を行いました。

〔評価・課題〕

- ・今後も活動機会の拡大を図るほか、ボランティア研修会を開催し、ボランティア活動の充実を図ります。

施策3 スポーツ情報の発信

- ▶スポーツパル会員に対し、毎月2回（1日、15日）盛岡広域圏のスポーツ情報等を配信したほか、コミッションホームページで、広域圏のスポーツ情報に特化した情報発信を行いました。

〔評価・課題〕

- ・コミッションホームページについては、予定アクセス数を超えた結果が得られており、今後も提供する情報を充実する取組が必要です。メールマガジンについても、定期的な配信を今後も継続して実施する必要があります。

（ウ）スポーツ施設の広域化への取組

施策1 適正配置に向けた岩手県や盛岡広域スポーツコミッションとの連携

- ▶コミッションが作成した「盛岡広域スポーツ施設のストック適正化指針」に情報を集約した結果、県営及び各市町営スポーツ施設の情報の共有が図られました。

〔評価・課題〕

- ・広域圏内にあるスポーツ施設の情報共有は図られたことから、今後施設を連携した活用方法や広域による合宿誘致、広域全体を意識した施設整備を目指す必要があります。

盛岡市スポーツ推進計画「アクションプラン」

前計画の基本的施策「スポーツを『する』環境づくり」の「ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進」に戦略的に取り組む具体策として、令和3年（2021年）12月にアクションプランを策定しました。「ウォーキングを核とした健康づくり施策の推進」など、アクションプランに盛り込まれた具体的な取組については、新しい計画において、引き継いで実施していくこととします。

第3章 基本方針と施策の体系

- 1 基本方針
- 2 施策の体系

1 基本方針

スポーツの力が盛岡の未来を創る

「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての人々の権利」であることから、すべての市民がスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができる盛岡のまちづくりを目指します。

本市は、平成25年度（2013年度）から令和4年度（2022年度）までの10年間を計画期間とする「市スポーツ推進計画（以下「前計画」という。）」において「スポーツの力が盛岡の未来を創る」を基本方針として、「2016希望郷いわて国体・いわて大会」を契機に、市民のさらなるスポーツの定着化を図り、すべての市民がスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができる盛岡のまちづくりを目指してきました。

基本方針の実現に向けて、基本的施策として「スポーツを『する』環境づくり」、「スポーツを『支える（育てる）』環境づくり」、「2016希望郷いわて国体・いわて大会の遺産の継承」を掲げ、さまざまな施策を実施してきました。また、平成31年（2019年）3月に議員発議により制定された「市スポーツを通じた健康づくりの推進に関する条例（平成31年条例第24号）」を受け、前計画に定める「ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進」をクローズアップした「市スポーツ推進計画アクションプラン」を令和3年（2021年）12月に策定し、基本方針の実現に向けて取り組んできたところです。

前計画中に開催された希望郷いわて国体・いわて大会をはじめとする国内外の各種イベントは、大会の誘致や受入れだけではなく、事前キャンプや合宿、ホストタウンという新たなスポーツとのかかわり方を示してくれました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行で、日常生活は一変し、新たな生活様式と呼ばれる急激な変化も経験したこともあり、数値目標の達成は難しい状況になっています。

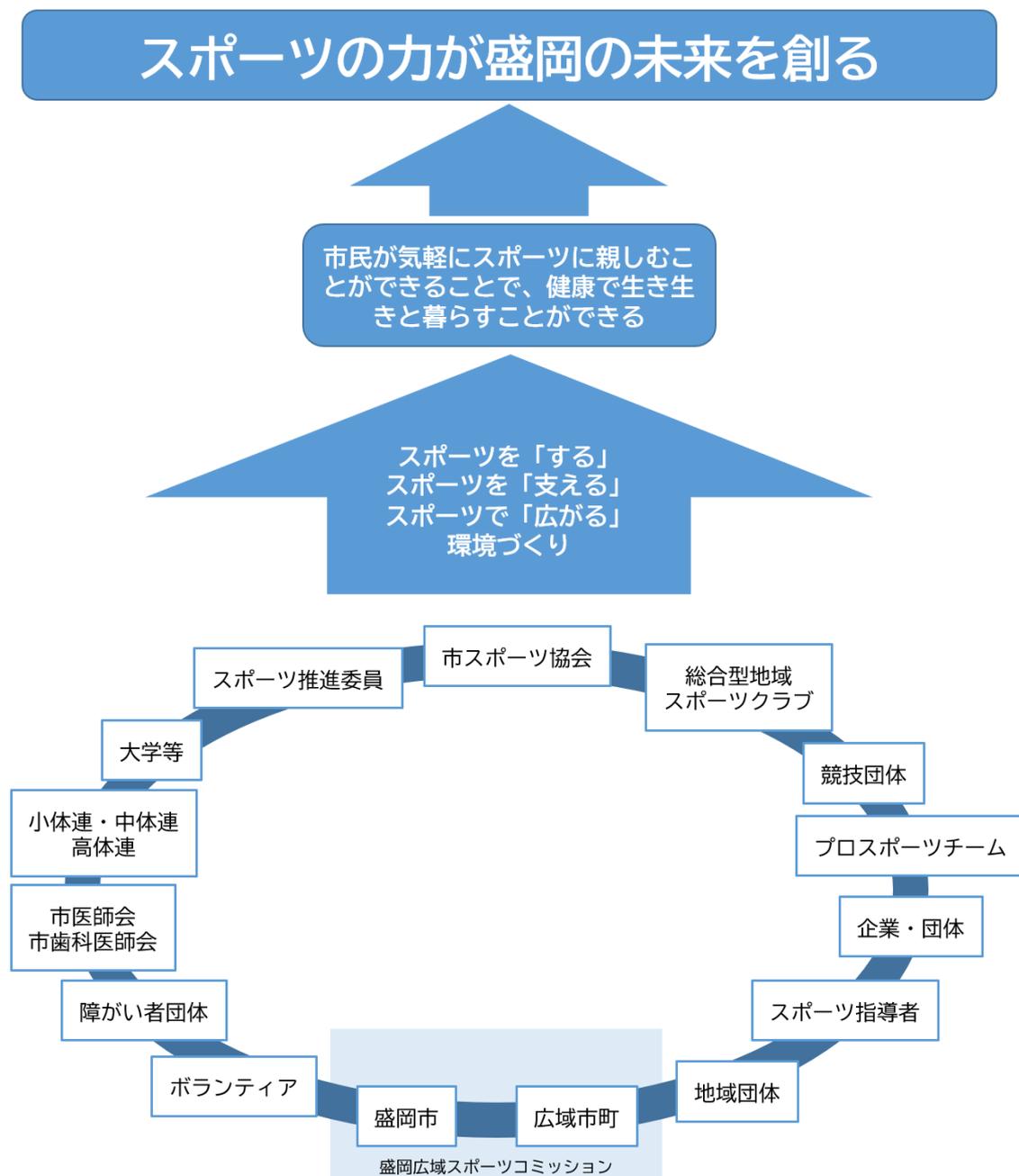
そのような中、令和4年7月の「盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」を皮切りに、9月には「啄木の里ふれあいマラソン大会2022」、10月には「いわて盛岡シティマラソン2022」を3年ぶりに開催するなど、社会情勢の変化に対応しながらスポーツの機会を創出しています。

今後も、いまだに収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症や人口減少、少子化、

高齢化のほか、中学校の部活動を地域が支える仕組みとする「部活動の地域移行」が進められるなど、スポーツを取り巻く環境の変化は避けられません。そのような中で、本市には、未来に向けてさまざまな変化に対応したスポーツ推進施策の展開が求められます。

このことから、新しい「市スポーツ推進計画」の基本方針は、前計画で示した基本方針「スポーツの力が盛岡の未来を創る」を継承し、「スポーツを『する』環境づくり」、「スポーツを『支える』環境づくり」、「スポーツで『広がる』環境づくり」を施策の柱として、すべての市民がスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができる盛岡のまちづくりを目指します。

基本方針の実現に向けた仕組みのイメージ

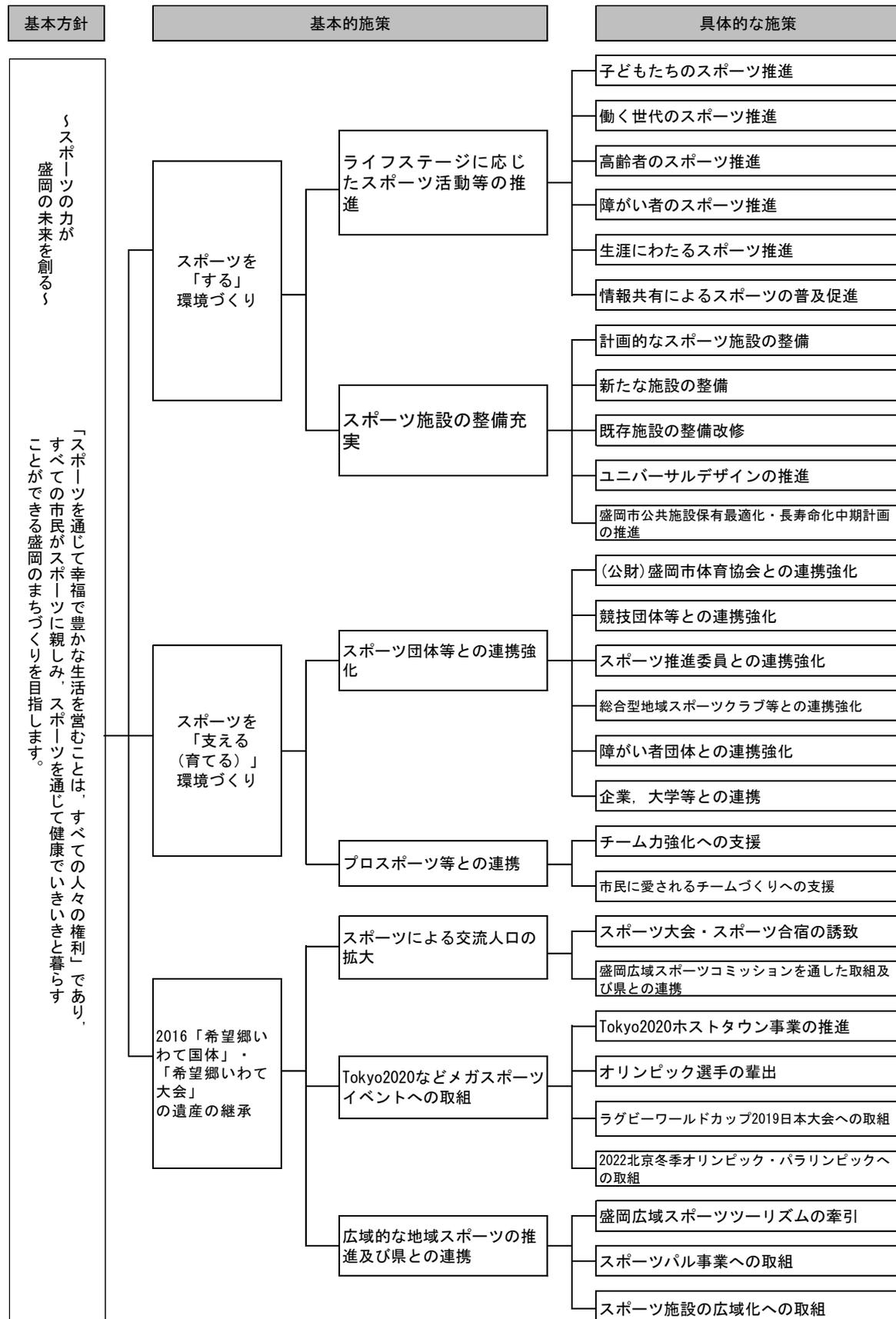


2 施策の体系

本計画では、市民の皆さんに理解していただくよう、基本方針、施策の柱に基づき、今後5年間に取り組むべき基本的施策と具体的な施策について、次のとおり体系化しました。

基本方針	I 施策の柱	II 基本的施策	III 具体的な施策	IV 取組方針	
スポーツの力が盛岡の未来を創る <small>「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、すべての市民がスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康で生き生きとくらすことができるまちづくりを目指します。」</small>	1 スポーツを「する」環境づくり	(1)身近で気軽に楽しむスポーツ活動・健康づくりの推進	①「する」場所の確保	ア 施設利用者の利便性の向上 イ 学校体育施設開放事業の推進	
			②「する」仲間の出会いの創出	ア スポーツとつながる仕組みの構築 イ スポーツについて相談できる場の設置	
			③「する」機会の創出	ア スポーツに親しむ機会の提供 イ 次世代体力・運動能力向上プロジェクトの実践 ウ スポーツによる健康増進 エ 運動部活動の地域移行に係る受け皿づくり等	
		(2)スポーツ施設の整備・充実	①計画的なスポーツ施設の整備	ア スポーツ施設の適正配置方針の見直し イ スポーツ振興基金の拡充	
			②施設の整備改修等	ア 盛岡市・都南村合併建設計画に基づいた整備 イ 市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画に基づいた整備 ウ 市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画に基づいた改修 エ その他の取組	
				①盛岡市スポーツ協会との連携強化	ア 事業運営に対する支援 イ スポーツ大会等の協働推進 ウ スポーツ指導者の確保・育成等 エ スポーツインテグリティの普及
					②競技団体等との連携強化
		2 スポーツを「支える」環境づくり	(1)スポーツ団体等との連携強化	③スポーツ推進委員との連携強化	
				④総合型地域スポーツクラブとの連携強化	ア クラブの設立や事業運営への支援 イ スポーツ推進事業への共催・後援 ウ 市民への周知拡大
				⑤障がい者団体との連携強化	ア スポーツ大会等への協力 イ 情報提供の促進
	⑥医療関係団体等との連携強化			ア スポーツ医・科学の取組への協力 イ スポーツ医・科学の普及	
	⑦企業、学校等との連携強化			ア 研究成果や人材等の活用 イ 企業への大会支援の要請 ウ 盛岡市立高等学校の部活動の推進	
				⑧ボランティアとの連携強化	ア ボランティアに関する知識の習得 イ ボランティアとのネットワーク構築
	(2)プロスポーツ等との連携				①チーム力強化への支援
				②市民に愛されるチーム作りへの支援	ア 地域活動等への参加促進 イ 市民による応援への支援
	3 スポーツで「広がる」環境づくり	(1)スポーツによる交流人口の拡大	①大会・合宿の誘致	ア 競技団体等への誘致活動 イ 大会主催者への運営支援 ウ 合宿補助制度の充実	
			②スポーツツーリズムの推進	ア 広域資源を活かしたスポーツイベントの実施 イ 地域におけるスポーツの活用促進	
		(2)広域でのスポーツの推進及び連携	①盛岡広域スポーツコミッションとの連携	ア 事務局運営への支援 イ スポーツ情報の発信 ウ エイト・オリンピックズ・プロジェクトとの連携・協力	
			②スポーツパル事業の拡充	ア 会員募集活動の強化・会員活動機会の拡大	
			③広域圏にあるスポーツ施設の利用の連携	ア 岩手県や盛岡広域スポーツコミッションとの連携	

参考：前スポーツ推進計画の体系図（後期：H30～R4）



第4章 取り組むべき施策

1 スポーツを「する」環境づくり

- (1) 身近で気軽に楽しむスポーツ活動・健康づくりの推進
- (2) スポーツ施設の整備・充実

2 スポーツを「支える」環境づくり

- (1) スポーツ団体等との連携強化
- (2) プロスポーツ等との連携

3 スポーツで「広がる」環境づくり

- (1) スポーツによる交流人口の拡大
- (2) 盛岡広域圏でのスポーツの推進及び連携

1 スポーツを「する」環境づくり

スポーツを「する」環境には「場所」、「仲間」、「機会」が必要です。「場所」については、施設の整備・充実はもちろん、施設利用者の利便性の向上が図ることができるよう取り組みます。「仲間」については、個人と団体、団体と団体がつながることができる仕組の構築を目指します。「機会」については、これまで実施しているイベント等を継続して、スポーツに親しむ機会を提供するほか、前計画のアクションプランでも力を入れたウォーキングについて、取組を継続しながら、歩くことへの意識を高めるなど、生活の中にスポーツがあることへの理解を広げます。

施設の整備・充実については「アセット計画」に基づいて整備・改修等を進めるとともに、アセット計画の対象とならない小規模施設等については「スポーツ施設の適正配置方針（平成26年度（2014年度）～令和5年度（2023年度））」を新たに策定し、今後の方針について見直しを進めます。

成果指標

指標：成人の週1回以上のスポーツ実施率

目指す方向	令和元年度（コロナ前） （基準値）	令和3年度（実績値）	令和9年度（目標値）
↗	44.6%	46.2%	65.0%

指標：40歳以上の肥満者（BMI25以上）の割合

目指す方向	区分	令和元年度（コロナ前） （基準値）	令和3年度（実績値）	令和9年度（目標値）
↘	男性	35.6%	37.1%	28.0%未満
	女性	25.2%	24.9%	19.0%未満

管理指標

指標	目指す方向	令和元年度（コロナ前） （基準値）	令和3年度（実績値）	令和9年度（目標値）
市スポーツ施設の利用者数	↗	1,087,714人	724,752人	1,200,000人
学校開放事業利用者数	↗	611,648人	448,237人	700,000人
モリウォーカーのダウンロード数	↗	—	※1,647件	20,000件

※モリウォーカーは令和4年9月リリースのため、実績値は令和4年12月時点の値です。

(1) 身近で気軽に楽しむスポーツ活動・健康づくりの推進

これまで実施してきた各種大会や講座・教室などの機会の提供の充実はもちろん、自発的にスポーツをするための場所の確保における利便性の向上、スポーツを通じて交流が生まれるきっかけとなる場の提供など、市民の誰もが身近で気軽にスポーツに親しみ、楽しみながら、健康で生き生きとした暮らしを持続できるよう、日常の中で健康づくりのために行う「身体活動」も含むスポーツ活動を推進します。

① 「する」場所の確保

ア 施設利用者の利便性の向上

スポーツ施設の利用に当たっては、施設の空き状況が分かり、予約も同時にできることで、利用者の利便性が向上するとともに、施設の効率的な稼働にもつながります。また、いつも利用している施設が、催事やメンテナンス等で利用できない場合の代替施設の検索、予約ができるシステムの検討を行い、利便性の向上を目指します。

[具体的な内容]

- a 施設予約システムの検討と構築

イ 学校体育施設開放事業の推進

地域にある小・中学校の体育施設（校庭・体育館）を開放し、気軽にスポーツに取り組むことができるよう取り組みます。また、各学校に設置している学校体育施設開放運営委員会が行っている利用団体の登録申請や施設利用の受付について、利便性の向上を図るためデジタル化等を検討するほか、夜間照明施設の計画的な更新・修繕を行い、利用者が安全に使用できる施設を目指します。

[具体的な内容]

- a 施設利用手続きのデジタル化の検討【新規】
- b 学校体育施設開放運営委員会への支援と同委員会のあり方の検討
- c 夜間照明施設の維持管理

② 「する」仲間の出会いの創出

ア スポーツとつながる仕組みの構築

スポーツをしたい人と団体、試合等をしたい団体と団体、指導者やメンバーを探している団体と個人がつながる場の創出を目指します。

[具体的な内容]

- a スポーツ団体データベースの検討と構築【新規】
- b 人材データベースの検討と構築【新規】
- c 学びの循環推進事業との連携

イ スポーツについて相談できる場の設置

これからは、少子化・高齢化が進むことが見込まれる一方で、eスポーツなどの新たなスポーツが誕生していることから、団体の結成や団体同士のつながりなどを支援する環境を作ります。

[具体的な内容]

- a スポーツ相談窓口の検討と設置【新規】

③ 「する」機会の創出

ア スポーツに親しむ機会の提供

色々なスポーツに触れることが、スポーツを始めるきっかけになるものと考え、市民の皆さんが気軽にスポーツを楽しむことができる機会の創出に努めます。

[具体的な内容]

- a 盛岡市民スポーツ大会の開催
- b 盛岡・北上川ゴムボート川下り大会の開催
- c 啄木の里ふれあいマラソンの開催
- d いわて盛岡シティマラソンの開催【新規】
- e 市スポーツ・レクリエーション大会の開催
- f 市民総参加スポーツの集いの開催
- g 市障がい者スポーツ大会の開催
- h 地区老人スポーツ大会への支援及び助成
- i スポーツイベントの市ホームページへの掲載
- j 子供会等各種団体のスポーツ行事企画への支援
- k 子ども対象の運動の楽しさ体験機会提供【アクションプラン】

イ 次世代体力・運動能力向上プロジェクトの実践

子どもたちの体力・運動能力の向上を目指し、体の動きづくりに効果的なトレーニングの実施、複数の種目を体験するスポーツ教室、指導者や保護者がスポーツ活動で活用できる知識の習得する機会の提供に取り組みます。

[具体的な内容]

- a もりおかこどもスポーツクラブの開催
- b 小学生の動きづくり事業（S A Qトレーニングウォーミングアップ・パッケージメニュー）の実施・検証【アクションプラン】
- c スポーツ医・科学勉強会の開催

ウ スポーツによる健康増進

心身の健康を維持・増進するためにはスポーツは有効な手段であることから、庁内関係部署等と連携し、日常生活の中で、健康づくりのために気軽に、自分のペースで取り組むことができるスポーツ活動を推進します。

[具体的な内容]

- a 市民体力テストの実施
- b もりおか健康ウォークの実施
- c モリウォーカーを活用したウォーキングの拡大【アクションプラン】
- d ウォーキングマップの周知拡大
- e いわて健康ウォークの共催【新規】
- f 健康づくり教室の開催【アクションプラン】
- g 介護予防教室の開催【アクションプラン】
- h 夜間や休日のスポーツ教室の開催【アクションプラン】
- i 健康づくりの取組への表彰制度の創設【アクションプラン】
- j さまざまな媒体を活用した健康づくり情報の発信【アクションプラン】
- k フレイル*・オーラルフレイル*対策の実施【新規】

エ 運動部活動の地域移行に係る受け皿づくり

中学校の部活動について、国は、令和5年度（2023年度）から土・日曜の部活動を学校ではなく、地域での実施に取り組む方針を打ち出しています。また、将来的には、平日の部活動についても地域に移行する予定とされています。これに対応するため、教育委員会や市スポーツ協会をはじめとする各種団体と協力して、中学生が将来にわたり、スポーツに継続して親しむことができる機会を提供できるよう取り組みます。

[具体的な内容]

- a プロジェクトチームの設立と制度設計、モデル地域での試行【新規】

令和3年(2021年)に策定したアクションプランにおいて、重点事業として「ウォーキングを核とした健康づくり施策の推進」を掲げ、健康づくり推進アプリによる運動習慣の定着・推進を目指しました。そこで生まれたのが「モリウォーカー」です。

歩数が計測できるほか、血圧や体重、健診(検診)受診の記録ができ、いずれも健康ポイントが貯まります。そのほか、指定のウォーキングコースを回る「リアルウォーキング」、普通に歩くだけで、盛岡・北上川ゴムボート川下り大会や啄木の里ふれあいマラソン、いわて盛岡シティマラソンの距離感を味わえる「バーチャルウォーキング」でウォーキングをさらに楽しめます。ぜひ、御利用ください。

* 用語解説 P53 参照

(2) スポーツ施設の整備・充実

施設の整備や改修等は、アセット計画に基づいて実施します。また、計画的な設備の更新・修繕等を進めます。

① 計画的なスポーツ施設の整備

ア スポーツ施設の適正配置方針の見直し

施設については「アセット計画」に沿った整備（長寿命化工事）を行っています。アセット計画の対象となっていない小規模施設等については「スポーツ施設の適正配置方針（平成29年度（2017年度）～令和5年度（2023年度）」（以下「適正配置方針」という。）において方針を定めており、令和5年度は現・適正配置方針の最終年度となることから、利用者の意見を反映させながら、令和6年度（2024年度）からの適正配置方針を策定する必要があります。

[具体的な内容]

- a 次期適正配置方針の策定
- b 施設利用者アンケートの実施

イ スポーツ振興基金の拡充

施設整備等には多額の費用を要することから、財源の確保が大きな課題です。国等の補助等はもちろん自主財源の拡充が必要であることから、基金の拡充に取り組みます。

[具体的な内容]

- a 既存施設のネーミングライツの検討【新規】
- b ふるさと納税等の活用【新規】

② 施設の整備改修等

ア 盛岡市・都南村合併建設計画に基づいた整備

[具体的な内容]

- a 都南東部体育館（仮称）の整備【新規】

イ 盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画に基づいた整備

[具体的な内容]

- a 都南・飯岡体育館の整備方針の策定と整備【新規】

ウ 盛岡市公共施設保有最適化・長寿命化中期計画に基づいた長寿命化工事

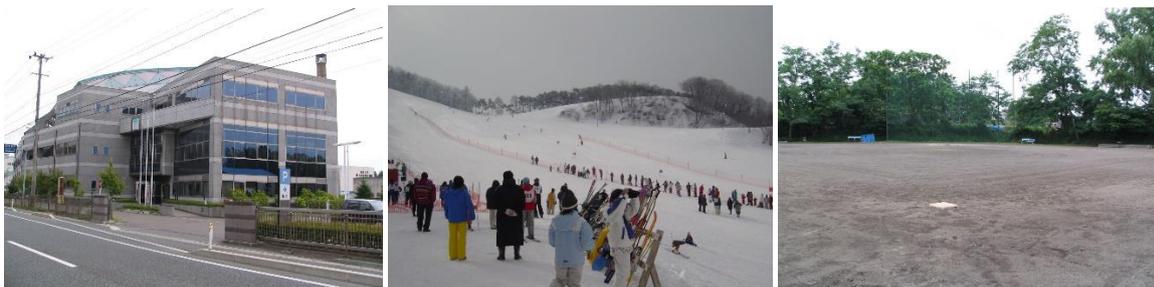
[具体的な内容]

- a 盛岡体育館の大規模な修繕の実施【新規】
- b 生出スキー場大規模改修の実施【新規】

エ その他の取組

[具体的な内容]

- a 河川区域にある野球場適正配置方針の検討
- b 既存施設のバリアフリー化の推進
- c スポーツ施設の Wi-Fi 環境整備の検討 **【新規】**



【上段】都南東部体育館（仮称）の完成予想図（イメージ）、【下段左】盛岡体育館（H8（1996）設置）、【下段中】生出スキー場（S56（1981）設置）、【下段右】太田橋野球場（H8（1996）設置）

2 スポーツを「支える」環境づくり

本市は、これまでもスポーツ団体等と連携して各種事業を展開し、市民のスポーツ活動を推進してきました。今後も市スポーツ協会、各競技団体、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等のスポーツ団体等との連携を強化し、市民のスポーツ活動がより活発に展開されるようスポーツ団体等の役割を明確にして、スポーツをする受け皿として、また、スポーツの指導者として「支える」環境づくりを進めます。

また、市は、地元のプロスポーツチームがあり、身近でプロの試合を観戦できる環境にあることに喜びを感じることができるよう、今後もコーディネートする役割を担うこととし、プロスポーツチームやプロスポーツチームを支援する市民と連携するほか、希望郷いわて国体・いわて大会の遺産（レガシー）であるボランティアとの連携を強化し、スポーツを支えるすべての人が互いに達成感を感じることができるよう「支える」環境づくりを進めます。

成果指標

指標：市が共催・後援する事業数

目指す方向	令和元年度（コロナ前） （基準値）	令和3年度（実績値）	令和9年度（目標値）
↗	201 事業	175 事業	270 事業

指標：総合型地域スポーツクラブの実施事業数

目指す方向	令和元年度（コロナ前） （基準値）	令和3年度（実績値）	令和9年度（目標値）
↗	128 事業	91 事業	250 事業

指標：プロスポーツチームのチーム会員数

目指す方向	区分	令和元年度（コロナ前） （基準値）	令和3年度（実績値）	令和9年度（目標値）
↗	グルージャ	112 人	656 人	1,500 人
	ビッグブルズ	769 人	598 人	1,500 人
	合計	881 人	1,254 人	3,000 人

管理指標

指標	目指す方向	令和元年度（コロナ前） （基準値）	令和3年度（実績値）	令和9年度（目標値）
スポーツ推進委員の年間活動延べ人数	↗	815 人	427 人	1,000 人
市スポーツ施設の利用者数【再掲】	↗	1,087,714 人	724,752 人	1,200,000 人
ホームゲーム1試合の平均入場者数	↗	グルージャ 1,368 人	1,394 人	2,500 人
		ビッグブルズ 1,249 人	850 人	2,500 人

(1) スポーツ団体等との連携強化

企画・運営ができるスタッフや指導者などの人材がいる各関係団体と連携を強化し、スポーツをする機会の創出によるスポーツの普及・定着化や競技力の向上を目指します。

① 盛岡市スポーツ協会との連携強化

ア 事業運営に対する支援

市スポーツ協会は、市内のスポーツ団体の統括団体として、競技力向上と市民への生涯にわたるスポーツの普及を活動の柱としており、市民に対するスポーツ機会の提供者として大きな役割を担っていることから、協会の事業運営に対し、必要な支援を行います。

[具体的な内容]

- a 市スポーツ協会運営事業への助成
- b 岩手県民体育大会、国民体育大会選手派遣事業への助成

イ スポーツ大会等の協働推進

本市が主催・共催するスポーツ大会等の開催に当たって、市スポーツ協会の機能を最大限に活用した協働体制の強化を図ります。

また、市内のスポーツ施設等を活用した全国大会等の誘致に向け、市スポーツ協会と連携を図ります。

[具体的な内容]

- a 各世代に対応したスポーツ教室の開催
- b 大会誘致に向けた連携

ウ スポーツ指導者の確保・育成等

市内のスポーツ団体を統括する市スポーツ協会を中心に、スポーツ指導者の量的・質的な需要に応えられるよう、必要な指導者の育成に努めます。

また、医・科学勉強会やスポーツインテグリティ研修会を開催し、エビデンスに基づく指導、スポーツの健全性を高める取組を実施します。

[具体的な内容]

- a スポーツ少年団指導者講習会の実施
- b スポーツ医・科学勉強会の開催【再掲】

エ スポーツインテグリティの普及【新規】

国の第3期スポーツ基本計画において、スポーツインテグリティの確保が求められており、スポーツにおける暴力やハラスメント、ドーピング等の脅威に対して、指導者だけではなく、スポーツに関わる全ての人々がインテグリティに対する理解を深めることができる取組を実施します。

- a スポーツインテグリティ研修会の開催【新規】
- b スポーツにおける暴力・ハラスメント等相談窓口の周知

② 競技団体等との連携強化

ア スポーツ推進事業への共催・後援

競技団体、ニュースポーツ団体、レクリエーション団体等が実施するスポーツ推進事業に対し、共催や後援を行います。

[具体的な内容]

- a 大会等への共催・後援
- b スポーツ少年団員募集の協力

イ スポーツ指導者の資質向上等

スポーツの意義や楽しみは、青少年の心身の健全な発達、健康の保持増進、レクリエーション、競技力の向上による意識の高揚など広範囲にわたり、スポーツ指導者には、これらを実現するための高い人間性と指導力が求められます。

このため、研修会・講習会の開催などにより指導者の資質向上に努めるほか、関係団体との情報交換を進め、積極的なスポーツ指導者の発掘や情報提供を行います。

[具体的な内容]

- a 競技団体が実施する指導者等講習会の開催周知や協力による支援
- b 岩手県が開催する講習会等の開催周知
- c スポーツ指導者リストの作成及びリストを活用した教育現場等におけるスポーツ活動の推進【新規】
- d スポーツインテグリティ研修会の開催【新規・再掲】

③ スポーツ推進委員との連携強化

ア 協議会事業に対する支援

スポーツ推進委員が、全市的かつ組織的に活動できるように、盛岡市スポーツ推進委員協議会に対し、必要な支援を行います。

[具体的な内容]

- a 盛岡市スポーツ推進委員協議会事業への補助
- b 盛岡市スポーツ推進委員協議会の運営、事業実施の支援
- c 盛岡市スポーツ推進委員協議会の委嘱の見直し

イ スポーツ推進委員の資質向上

スポーツ推進委員がその役割を理解し活躍できるように、講習会への参加を促すなど、資質の向上に努めます。

[具体的な内容]

- a 新任委員を中心とした講習会の実施
- b 岩手県や各種団体が実施する各種講習会への参加促進
- c ラジオ体操講習会の実施

ウ 市民への周知拡大

スポーツ推進委員の活動に市民の理解を得るため、スポーツ推進委員の役割や活動状況について、広く市民に周知します。

[具体的な内容]

- a 盛岡市スポーツ推進協議会が主催するスポーツ行事企画への支援
- b 機関誌の発行
- c 市のホームページやSNSでの周知

④ 総合型地域スポーツクラブとの連携強化**ア クラブの設立や事業運営への支援**

地域での多様なスポーツ活動が促進されるよう、地域スポーツ活動に積極的に取り組むクラブの設立及び事業運営への必要な支援を行います。

[具体的な内容]

- a 市のホームページやSNS等を活用した情報の提供
- b もりスポネットとの連携
- c クラブの設立支援
- d 事業運営への支援のあり方の検討

イ スポーツ推進事業への共催・後援

総合型地域スポーツクラブがスポーツ推進事業として実施する教室や講座等に対し、共催・後援を行います。

[具体的な内容]

- a 総合型地域スポーツクラブが実施するスポーツ教室等開催にかかる共催・後援の実施

ウ 市民への周知拡大

より多くの市民がスポーツに親しみ、地域の連帯意識の高揚や世代間交流等による地域の活性化が図られるよう、総合型地域スポーツクラブの活動等について市ホームページやSNS等を活用し周知します。

[具体的な内容]

- a 市のホームページやSNSでの周知

⑤ 障がい者団体との連携強化**ア スポーツ大会等への協力**

盛岡市障がい者スポーツ大会等の開催に当たって、スポーツ推進委員の派遣などに協力するほか、大会誘致に関する情報の収集に努めます。

[具体的な内容]

- a 市障がい者スポーツ大会の開催【再掲】

- b 障がい者スポーツ大会に関する情報収集【新規】

イ 情報提供の促進

障がい者スポーツへのスポーツ関係者の理解と協力が促進されるように、庁内関係部署や（一社）岩手県障がい者スポーツ協会等の障がい者団体と連携し、スポーツ関係者に対し障がい者スポーツに関する情報の提供に努めます。

[具体的な内容]

- a 市ホームページやSNS等による障がい者スポーツの情報発信【アクションプラン】
- b 障がい者スポーツキャラバンの実施【アクションプラン】

⑥ 医療関係団体等との連携強化

ア スポーツ医・科学の取組への協力【新規】

スポーツ医・科学の専門的な知識を持った人材等の積極的な活用を図ります。

[具体的な内容]

- a スポーツ医・科学勉強会等への講師派遣依頼

イ スポーツ医・科学の普及【新規】

健康づくりや競技力の向上に資するスポーツ医・科学の知見を普及するための活動に努めます。

[具体的な内容]

- a 市ホームページ等を活用した情報発信
- b スポーツ医・科学に関する研修会等の企画

⑦ 企業、学校等との連携

ア 研究成果や人材等の活用

スポーツに係る地域の貴重な資源として、企業や学校等との協力関係を築き、スポーツに関する研究成果や人材等の積極的な活用に努めます。

[具体的な内容]

- a スポーツ医・科学勉強会等への講師派遣依頼【再掲】
- b スポーツ教室等の指導者派遣依頼
- c スポーツ大会における運営ボランティア派遣依頼
- d 学びの循環推進事業との連携【新規・再掲】

イ 企業への大会支援の要請

各種スポーツ大会等の開催運営に当たっては、大会実行委員会への参加や特別協賛等による企業からの支援を働きかけます。

[具体的な内容]

- a 盛岡の特色あるスポーツイベント（盛岡・北上川ゴムポート川下り大会、啄木の里ふれあいマラソン大会、いわて盛岡シティマラソン）への企業協賛の拡充
- b 企業に対する大会運営にかかるボランティア派遣依頼や土地等借用（企業CSR活動としての周知方法の検討）【新規】

ウ 盛岡市立高等学校の部活動の推進

岩手県内唯一の市立高校を有する本市の特色を最大限に活用するため、近接のスポーツ施設を活用したスポーツの体験機会の創出を目指します。

[具体的な内容]

- a 市立高校近接のスポーツ施設を活用したスポーツ機会の創出

⑧ ボランティアとの連携強化

ア ボランティアに関する知識の習得 【新規】

持続性あるスポーツイベントの開催には、ボランティアスタッフの存在が不可欠であることから、イベントの主催者、ボランティアスタッフが互いに達成感を感じることができるよう、主催者、ボランティア双方の知識習得のための研修会を開催します。また、ボランティアスタッフからボランティアリーダーとなる人材の育成を行います。

[具体的な内容]

- a ボランティアに関する研修の実施

イ ボランティアとのネットワークの構築 【新規】

ボランティアスタッフが、達成感を感じながらスポーツイベントに参加できるようボランティアスタッフのネットワーク構築を行います。ボランティアスタッフのネットワーク構築のためのスポーツパルを活用するほか、ボランティアスタッフの活躍を周知します。

[具体的な内容]

- a スポーツパル事業を活用したボランティア情報の発信
- b 県とも連携したボランティア登録制度の検討



いわて盛岡シティマラソンでも多くのボランティアの皆さんの支えにより大会が成功しました

（２）プロスポーツ等との連携

本市をホームタウンとするプロスポーツチームや本市ゆかりの選手が、全国や国際舞台で活躍することは、多くの市民に感動を与え、スポーツへの関心を高め、競技力の向上にもつながることから、プロスポーツ等と連携を図り、また、市民がプロスポーツ等を応援する機運の醸成を図ります。

① チーム力強化への支援

ア 練習・試合環境の確保・支援

本市を拠点とするプロスポーツチームの練習場所・ホームゲーム開催地として、スポーツ施設を優先的に利用できるよう支援に努めます。また、より多くの市民の観戦につながるよう日程等の周知に努めます。

[具体的な内容]

- a スポーツ施設の先行利用予約の実施
- b 市のホームページやSNSによる試合日程の周知

② 市民に愛されるチームづくりへの支援

ア 地域活動等への参加促進

本市を拠点とするプロやプロを目指すチームが、多くの市民に愛され、市民チームとして成長するために、地域活動等への参加を促進します。

[具体的な内容]

- a 市が主催するスポーツ事業を始めとする各種行事への参加促進
- b スポーツをはじめとする地域活動等への参加促進
- c プロスポーツチームが行う社会連携活動の周知【新規】

イ 市民による応援への支援

本市を拠点とするプロやプロを目指すチームの試合会場等に多くの市民が足を運び、応援するための仕組みづくりを検討します。

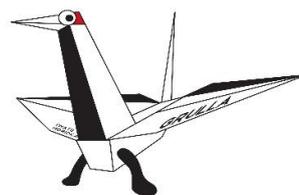
[具体的な内容]

- a 市のホームページやSNSによる試合日程の周知【再掲】
- b 小学生の無料招待等の応援支援策の検討

みんなで応援して、チームを大きく育てよう！！



岩手ビッグブルズ・マスコット
「BULLZO (ぶるぞー)」



いわてグルージャ盛岡・マスコット
「キヅール」

3 スポーツで「広がる」環境づくり

平成28年(2016年)に「希望郷いわて国体・いわて大会」が開催されました。その後、平成30年(2018年)には平昌オリンピック、令和元年(2019年)にはRWC2019、令和3年(2021年)には、新型コロナウイルス感染症の影響で1年延期となった東京2020、令和4年(2022年)には、2022北京オリ・パラと県内、国内、国外でメガスポーツイベントが開催されました。

これらのイベントを契機に、公認チームキャンプ(合宿)や事前キャンプの受け入れなどを関係機関・団体と行ったことから、これらの経験を「レガシー」として発展させ、盛岡広域の8市町と連携したスポーツツーリズム等に取り組み、盛岡広域圏の魅力の発信と賑わいの創出を目指します。

成果指標

指標：スポーツ合宿・大会の受入数

目指す方向	令和元年度(コロナ前) (基準値)	令和3年度(実績値)	令和9年度(目標値)
↗	102件	24件	110件

指標：スポーツパルの登録者数

目指す方向	令和元年度(コロナ前) (基準値)	令和3年度(実績値)	令和9年度(目標値)
↗	1,952人	2,654人	10,000人

管理指標

指標	目指す方向	令和元年度(コロナ前) (基準値)	令和3年度(実績値)	令和9年度(目標値)
盛岡広域スポーツコミッションホームページ閲覧数	↗	68,214件	44,889件	100,000件
スポーツボランティア参加者数	↗	279人	44人	300人
合宿費補助対象宿泊数	↗	—	※ 144泊	500泊

※合宿費補助事業は令和4年4月開始のため、現状値は令和4年11月時点の値です。

Ⅰ (1) スポーツによる交流人口の拡大

東京 2020 のホストタウン事業における成果を生かし、関係団体と連携・協力して、圏外からの大会や合宿等の誘致を図るほか、盛岡広域圏の魅力を発信し、盛岡広域圏の資源を生かしたスポーツツーリズムを推進し、交流人口の拡大を目指します。

① 大会・合宿の誘致

ア 競技団体等への誘致活動

東京 2020 等を通じて構築したあらゆるネットワークを活用して、競技団体や大学・社会人実業団チーム等に対し積極的な誘致活動を行います。

また、誘致活動に当たっては、岩手県やコミッションと連携しながら、盛岡広域圏全体に効果が波及するように努めます。

[具体的な内容]

- a 盛岡広域スポーツコミッションと連携した全国大会等誘致活動の実施

イ 大会主催者への運営支援

施設使用料の減免など、大会主催者に対する運営支援のあり方を検討します。

[具体的な内容]

- a 誘致する全国大会以上の大会における施設使用料支援策の検討

ウ 合宿補助制度の充実 【新規】

令和4年度（2022年度）に市内のスポーツ施設・宿泊施設を利用したスポーツ合宿に対する補助制度を創設しました。この合宿補助制度の充実を図るとともに、広く周知し、スポーツ合宿の誘致を行います。

[具体的な内容]

- a スポーツ合宿補助制度を活用した誘致活動の実施
- b 活用しやすい制度とするためのスポーツ合宿補助制度の拡充

② スポーツツーリズムの推進

ア 広域資源を活かしたスポーツイベントの実施

自然資源やスポーツ資源、観光資源等、広域資源を生かした新たなスポーツイベントや、既存のスポーツイベントの見直しを図り、スポーツツーリズムの推進を図ります。

[具体的な内容]

- a いわて盛岡ボールパークを中心に、広域スポーツ施設を活用した学生野球の招致【新規】
- b ウィンタースポーツを活用したイベントの提案
- c アウトドアスポーツを活用したイベントの提案
- d サイクルツーリズムを活用したイベントの提案

イ 地域におけるスポーツの活用推進 【新規】

地域に根付いている武道などの伝統的なスポーツをはじめ、まちなかを使ったニュースポーツなどを活用して、地域におけるスポーツの振興を図ります。

[具体的な内容]

- a 武道振興策の検討
- b e スポーツイベントの提案
- c アーバンスポーツイベントの提案
- d 武道ツーリズムを活用した交流推進

(2) 盛岡広域圏でのスポーツの推進及び連携

「希望郷いわて国体・いわて大会」のレガシーの一つであるコミッションと連携し、広域圏内でのスポーツによる交流人口の拡大を目指します。

① 盛岡広域スポーツコミッションとの連携

ア 事務局運営の支援

盛岡広域圏各市町がそれぞれの自立性を尊重しつつ、相互に連携・強調してスポーツツーリズムの取組を通じた地域の魅力の発信と賑わいの創出を図るために設立された、コミッション事務局の運営支援を行うとともに、市の事業との連携により効果の拡大に努めます。

[具体的な内容]

- a 盛岡広域スポーツコミッション事務局運営の支援

イ スポーツ情報の発信

広域圏でスポーツを「する」、スポーツを「支える」きっかけを作るため、コミッションと連携して、スポーツイベント情報やスポーツボランティア情報を、メールマガジンやホームページにより発信します。

[具体的な内容]

- a コミッションホームページやSNS、メールマガジンとの連携

ウ エイト・オリンピックズ・プロジェクトとの連携・協力

本市に縁のあるオリンピック・パラリンピック選手を輩出するため、コミッションが取り組むオリンピック等選手輩出を目指すエイト・オリンピックズ・プロジェクトと連携・協力し、練習環境の整備や機運の醸成を図ります。

[具体的な内容]

- a 有望選手の情報収集や新たな有望選手の発掘
- b 広報や市ホームページ、SNS等での周知、コミッションへの情報提供

② スポーツパル事業の充実

ア 会員募集活動の強化・会員活動機会の拡大

スポーツパル会員を増やすため、協賛企業との連携による会員特典の充実やスポーツイベント主催者との連携による会員の活動機会の拡充を図ります。

また、スポーツ施設利用やボランティア活動により得られるスポーツパルポイント制度の電子化に向けた制度の見直しを行います。

[具体的な内容]

- a 協賛企業と協力した会員特典の開発
- b メールマガジンによるボランティア活動機会の提供
- c スポーツイベント主催者に対するスポーツパルボランティア制度の周知
- d 会員交流会やボランティア講習会の開催

③ 広域圏にあるスポーツ施設の利用の連携

ア 岩手県や盛岡広域スポーツコミッションとの連携

盛岡広域圏におけるスポーツ施設の共有化や適正配置により、広域住民の利便性の向上、スポーツ活動機会の充実及び施設整備への負担の軽減が図られることから、それらに向けたコミッションの取組を推進します。

[具体的な内容]

- a スポーツ施設配置の調査・研究への協力
- b 県や盛岡広域スポーツコミッションとのスポーツ施設情報の共有



スポーツパルは、スポーツに親しみスポーツを支える住民のネットワークをつくり、地域の住民がスポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができるまちづくりを推進することを目的とする取組です。

スポーツパル会員（登録無料）は、スポーツ施設の利用やボランティア活動への参加によってポイントを貯めることができ、ポイントに応じて希望のグッズと交換できるほか、メールマガジンでスポーツ情報の配信を受けることができます。

皆さんも登録してみませんか？



詳しくは
スポーツパル
ウェブサイトへ

参考：盛岡市スポーツ推進計画アクションプラン（概要）

平成31年3月に施行された「盛岡市スポーツを通じた健康づくりの推進に関する条例」を受けて、すべての市民がスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができる盛岡のまちづくりの実現に向け、令和3年12月に「盛岡市スポーツ推進計画アクションプラン」を策定しました。このアクションプランでは、ウォーキング、散歩、階段使用など、目的をもって楽しく体を動かすこともスポーツと捉え、気軽に健康づくりに取り組むことができるよう、様々な関係機関と協力して事業を企画することとしました。

1 背景と趣旨

盛岡市スポーツ推進計画に定めている施策について、より効果的・重点的に取り組む必要があるとともに、「盛岡市スポーツを通じた健康づくりの推進に関する条例」の基本政策に沿った取組を推進することが求められている。このことから、スポーツ関係団体及び市役所関係課が連携し、盛岡市スポーツ推進計画の基本的施策である「ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進」に特化したアクションプランを策定し、更なる取組を進めるもの。

2 「スポーツ」の捉え方

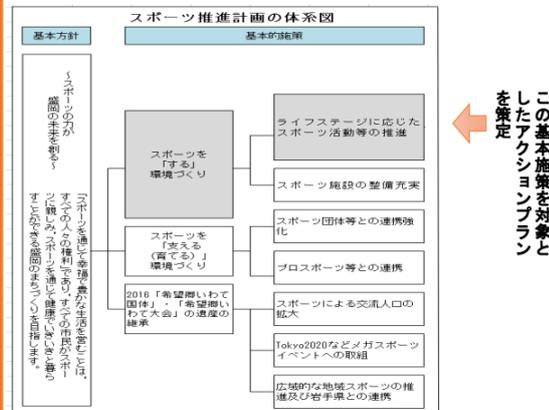
「スポーツ」とは「競技スポーツ」だけでなく、日常の中で楽しみや自身の健康づくりのために行う「身体活動」も含め、ウォーキング、散歩、階段使用など、目的をもって楽しく体を動かすこともスポーツであると捉える。

3 策定の目的

盛岡市スポーツ推進計画の基本方針実現のため、日常の中で楽しみや自身の健康づくりのために行う「身体活動」を積極的に推し進めることを目的に策定するものであり、条例第3条に定める基本政策「生涯にわたるスポーツ活動による健康長寿社会の形成」及び「地域におけるスポーツ活動による世代間の交流及び地域の活性化の推進」の実現を図るもの。

4 アクションプランの位置づけ

スポーツ推進計画における「スポーツを「する」環境づくり」の「ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進」に重点を置き、市として健康づくりに戦略的に取り組む具体策として位置付ける。



5 アクションプランの期間及び成果指標と評価

(1) 期間

スポーツ推進計画の最終年度と合わせ令和3～4年度の2年間とする。

(2) 成果指標と評価

成果指標は、スポーツ推進計画に現在設定されている数値を目指していくこととし、位置づけられた事業及び内容はスポーツ推進審議会で進捗状況を点検・評価し、令和5年度以降の次期スポーツ推進計画に引き継ぐことも想定するもの。

6 ライフステージに応じたアクションプラン（具体的取組）

抜粋

重点事業の取組方針

「ウォーキング」を核とした健康づくり施策の推進

達成目標

週1回以上ウォーキングしている市民(成人)の割合60% (R4年度末)

具体的な取組①

＜健康づくり推進アプリによる運動習慣の定着推進＞
[ウォーキングマップ等を取り込んだ健康づくり推進アプリの構築]
・ マップ機能を活用したウォーキングの推奨
・ 健康教室、スポーツ教室、健康診断への参加促進
・ 毎日の体重・血圧記録等、日常からの健康づくり意識の向上
⇒ 健康ポイントの付与により、運動習慣の定着を図る。

具体的な取組②

＜ウォーキングマップのグレードアップ化による利用促進＞
・ スポーツ、観光、商業施設等の情報追記

具体的な取組③

・ 元気はなまる筋力アップ教室等、既存の介護予防教室の内容の充実
・ 総合型地域スポーツクラブ、プロスポーツチーム等による健康づくり教室の実施

主要な事業の取組方針

各ライフステージに応じたスポーツを通じた健康づくり施策の推進

具体的な取組(抜粋)

- ・ プロスポーツチームのダンサーによる体育授業の実施・運動の楽しさ体験イベントの実施 【子どもたちの健康づくり】
- ・ 健康づくりに取り組む企業、団体、町内会等を表彰する制度の創設 【働く世代の健康づくり】
- ・ 医療機関受診時や健康診断時等に合わせた、健康づくり施策やフレイル等のキーワードの周知 【高齢者の健康づくり】
- ・ 小学校での障がい者スポーツの指導 【障がい者の健康づくり】
- ・ 健康教室+スポーツイベント等、多分野を掲載したパンフレット作成 【情報共有による健康づくり】

【アクションプラン関係課】

実施主体課 スポーツ推進課・障がい福祉課・長寿社会課・健康福祉課・健康増進課・学校教育課・生涯学習課
協力課 広聴広報課・観光課・経済企画課・農政課 **連携先** スポーツ団体・町内会・企業・教育医療機関等

第5章 計画の実現に向けて

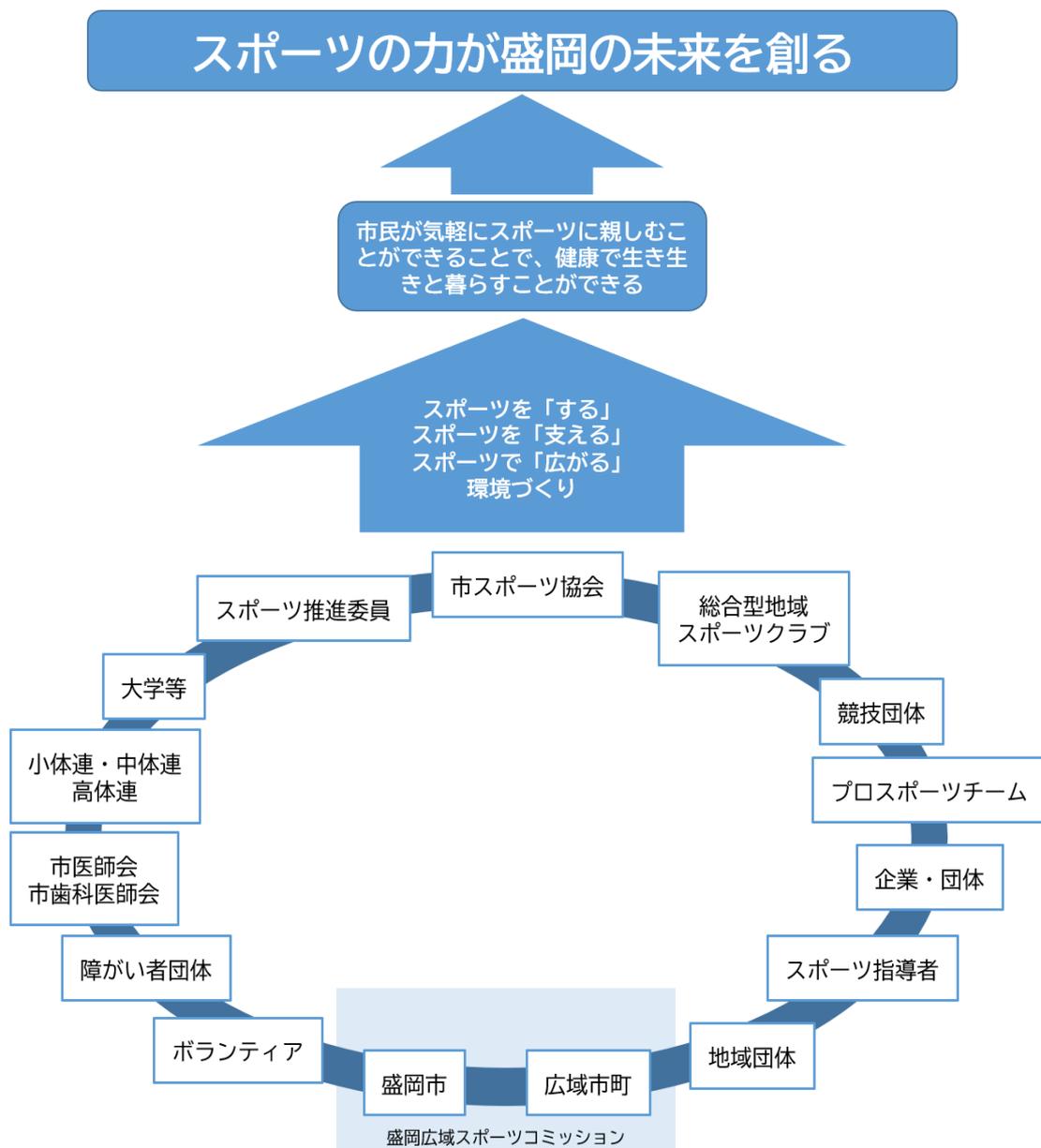
- 1 計画の推進体制
- 2 計画の評価

1 計画の推進体制

地方自治体は、スポーツ基本法に掲げられている「スポーツは、これを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利である」等の8項目にわたる基本理念*に基づき、自主的かつ主体的に、地域の特性に応じたスポーツに関する施策を策定し、実施する責務があります。

このことから、本計画の基本方針の実現に向けては、市民のスポーツへの関心と理解のもと、国、岩手県はもとより、すべてのスポーツ関係者の連携・協働により、施策を総合的かつ計画的に推進する必要があります。

【再掲：基本方針の実現に向けた仕組みのイメージ】



* 資料 P53 参照

2 計画の評価

Ⅲ (1) 成果指標の設定と評価方法について

今後5年間を見通した基本方針に基づいて、施策を推進し、確実に実施するためには、適切な成果指標及び管理指標を設定し、その達成状況を客観的に評価する必要があります。このため本計画では、「施策の柱」に沿って、定量的な成果指標を設定することとします。

Ⅲ (2) PDCAサイクルによる計画管理

成果指標を着実に達成するため、P（計画）→D（実行）→C（評価）→A（改善）のサイクルにより計画を管理します。

このため、市はスポーツ推進審議会に対して計画の進行状況及び成果指標の達成状況を定期的に示し、評価や改善の提案を受けながら計画管理を行います。



資料

用語解説

ページ	用語	解説
2	eスポーツ	eスポーツ（イースポーツ）は、コンピュータゲーム（ビデオゲーム）をスポーツ競技として捉える際の名称で、エレクトロニック・スポーツ（electronic sports）の略称です。
2	アーバンスポーツ	<p>アーバンスポーツは「エクストリームスポーツ」という速さや高さを極限まで追求し、華麗な離れ業を競い合うスポーツの1種で、都市での開催が可能なスポーツ。代表的な競技はBMX¹、スケートボード、スポーツクライミング、パルクール²、インラインスケートなど。</p> <p>1 「バイシクルモトクロス」と呼ばれる自転車競技の1種 2 走る・跳ぶ・登るといった人間が本来持っている運動能力を鍛え、芸術的かつ機能的に移動するという競技</p>
5	成人の週1回以上のスポーツ実施率	まちづくり評価アンケート結果を使用。ウォーキング、筋力トレーニングを含むトレーニング、ラジオ体操を含む体操、ランニング、サイクリング、球技、ダンス、水泳、登山、釣り、キャンプ、スキー、スケート、格闘技、武道、ニュースポーツなどのスポーツ、レクリエーションとしています。
5	BMI	「Body Mass Index」の頭文字を取ったもので、肥満判定の指標の一つ。「体重(キログラム)÷身長(メートル)÷身長(メートル)」で算出され、18.5未満をやせ、25以上を肥満としています。男女ともBMI 22の人が最も病気にかかりにくいといわれています。
	40歳以上の肥満者（BMI 25以上）の割合の目標値	国民の健康の増進の総合的な推進を図るための基本的方針（平成24年7月10日厚生労働省告示第430号）別表第5に掲げられている数値を参考に設定。
6	モリウォーカー	ウォーキングや日々の健康記録で健康ポイントが貯まるスマートフォンアプリ。本日の歩数が一目でわかるほか、市内のウォーキングコースを実際歩くことができる「リアルウォーキング」と、普段は歩くことができないコースを歩数で巡る「バーチャルウォーキング」があり、楽しみながら歩くことができるアプリです。
6	もりおかこどもスポーツクラブ	次世代体力・運動能力向上プロジェクトの一環として、盛岡市内の小学3・4年生を対象とした多種目体験型のスポーツ教室。前期（4月～7月）と後期（10月～2月）の各9～12回程度行われ、球技や陸上競技、武道、パラスポーツなどを実施しています。
7	SAQトレーニング	1980年代後半にアメリカで開発されたトレーニングで、基礎的なトレーニングを、スピード（speed）、アジリティ（agility 敏捷性）、クイックネス（quickness 素早さ）の3つに分類して行うもの。SAQは(株)クレーマージャパンが商標権を持つ登録商標です。
9	玄米ニギニギ体操	筒状の布袋に約300gの玄米を入れた「ニギニギ棒」を握りながら行う軽いダンベル体操です。

ページ	用語	解説
11	PCB	PCBは、ポリ塩化ビフェニル (Poly Chlorinated Biphenyl) の略称。人工的に作られた主に油状の化学物質で、現在は製造・輸入ともに禁止されています。PCBを使用している代表的な電気機器等には、変圧器やコンデンサー、安定器があり、低濃度PCB廃棄物の処分は、PCB特措法において令和9年(2027年)3月31日までに終わらせる必要があります。
12	盛岡広域スポーツ コミッション	希望郷いわて国体・いわて大会の盛岡広域首長懇談会・国体部会の発展的解消により、平成29年(2017年)3月に設立。盛岡広域圏(盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町)の8市町で構成され、スポーツツーリズムの推進等を連携して行っています。
12	スポーツパル	スポーツパル事業は、スポーツに親しむ人を広く募集し、パル(英語で「仲間」として登録し、市及び盛岡広域圏のスポーツ関連情報を提供するとともに、スポーツ施策に協力していただく事業。施設利用やボランティア等によりポイントを付与する制度もあります。
15	総合型地域スポーツ クラブの数の目標値	令和4年度の目標数は、国の旧スポーツ振興基本計画で総合型地域スポーツクラブの設立が望ましい地域規模として示された「中学校区」の数です。
15	プロチーム等のチー ム会員数の策定時の 数値	プロスポーツ等の平成23年度のチーム会員数は、盛岡市を拠点とするプロやプロを目指すチームの会員数で、平成24年11月時点の数値です。
16	スポーツインテグ リティ	インテグリティとは「高潔さ、品位、完全な状態」を意味し、スポーツにおけるインテグリティとは「スポーツが様々な脅威により欠けることなく高潔な状態」を指します。脅威とは八百長・違法賭博、ガバナンス欠如、暴力・ハラスメント、ドーピング、反社会的な行為などです。
19	CSR	「Corporate Social Responsibility」の略語で「企業の社会的責任」という意味になります。一般的には、環境活動、ボランティア、寄付活動など、企業としての社会貢献の活動を言います。
21	ホストタウン	東京2020に向けて、大会参加国・地域の選手・関係者と地域住民との相互交流を図る地方公共団体のことで、県内では、盛岡市・紫波町がカナダ、八幡平市がルワンダ、岩手町がアイルランド、盛岡市がマリのホストタウンです。
22	MICE (マイス)	企業等の会議(Meeting)、企業等が行う研修旅行(インセンティブ旅行・Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称です。(公財)盛岡観光コンベンション協会が助成金制度を実施しています。
24	SNS	ソーシャル・ネットワーキング・サービスのことで、登録された利用者同士が交流できるWebサイトの会員制サービスのことで、密接な利用者間のコミュニケーションを可能にしており、最近では、会社や組織の広報としての利用も増えてきました。フェイスブックやツイッター、ラインなどが有名。

ページ	用語	解説
34	フレイル	人は年を取ると段々と体の力が弱くなり、病気にならないまでも手助けや介護が必要となってきます。このように心と体の働きが弱くなってきた状態をフレイル（虚弱）といいます。
34	オーラルフレイル	口腔機能の軽微な低下や食の偏りなどを含み、身体の衰え（フレイル）の一つです。オーラルフレイルの始まりは、滑舌低下、食べこぼし、わずかなむせ、かめない食品が増える、口の乾燥等の症状で、見逃しやすく、気が付きにくい特徴があります。

資料

スポーツ推進審議会委員名簿

氏名	役職等
あさめま みちなり 浅沼 道成	岩手大学人文社会科学部教授
いのうえ かずひこ 井上 一彦	岩手県立大学准教授
うじいえ まり 氏家 真梨	盛岡大学栄養科学部講師
おがさわら よしぶみ 小笠原 義文	岩手大学名誉教授
おかみ しおり 岡見 詩織	株式会社岩手ビッグブルズ事業部
おのであら こずえ 小野寺 こずえ	盛岡広域振興局特命課長（特定課題）
おばら ゆき 小原 由紀	岩手県高等学校体育連盟盛岡支部長
かとう さだふみ 加藤 貞文	一般社団法人盛岡市医師会理事
こうや ゆみこ 高屋 裕美子	盛岡商工会議所女性会理事
こばやし さとし 小林 智	盛岡市中学校体育連盟会長
すずき しゅんいち 鈴木 俊一	一般社団法人盛岡市歯科医師会常務理事
でと きょうこ 出戸 亨子	盛岡市スポーツ少年団委員
なかなるまい けいた 中軽米 敬太	アスレティックトレーナー
ながさわ しげる 長澤 茂	公益財団法人盛岡市スポーツ協会会長
なかむら はじめ 中村 一	盛岡市町内会連合会副会長
まいた にろう 米田 二郎	盛岡市老人クラブ連合会副会長
まつい しげき 松井 繁紀	盛岡市小学校体育連盟会長
みうら たくろう 三浦 拓朗	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会常務理事
みかた れいいち 三ヶ田 礼一	特定非営利活動法人日本オリンピックズ協会
むらさと ひろこ 村里 洋子	盛岡市スポーツ推進委員協議会会長

盛岡市スポーツ推進計画の策定に係る検討経過

令和4年8月24日	第1回盛岡市スポーツ推進審議会 諮問、現計画の振り返り、新計画の骨子案の検討
令和4年10月27日	第2回審議会 骨子の確定、各施策の事業案の検討
令和4年11月29日	第3回審議会 盛岡市スポーツ推進計画（案）の検討
令和5年1月16日	第4回審議会 盛岡市スポーツ推進計画（案）の検討
令和5年2月15日～ 3月6日	パブリックコメントの実施 （意見5件）
令和5年3月29日	第5回審議会 盛岡市スポーツ推進計画（最終案）について 答申
令和5年3月31日	盛岡市スポーツ推進計画の策定

スポーツ基本法（抜粋）

第一章 総則

（基本理念）

第二条 スポーツは、これを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の権利であることに鑑み、国民が生涯にわたりあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的かつ自律的にその適性及び健康状態に応じて行うことができるようにすることを旨として、推進されなければならない。

- 2 スポーツは、とりわけ心身の成長の過程にある青少年のスポーツが、体力を向上させ、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培う等人格の形成に大きな影響を及ぼすものであり、国民の生涯にわたる健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む基礎となるものであるとの認識の下に、学校、スポーツ団体（スポーツの振興のための事業を行うことを主たる目的とする団体をいう。以下同じ。）、家庭及び地域における活動の相互の連携を図りながら推進されなければならない。
- 3 スポーツは、人々がその居住する地域において、主体的に協働することにより身近に親しむことができるようにするとともに、これを通じて、当該地域における全ての世代の人々の交流が促進され、かつ、地域間の交流の基盤が形成されるものとなるよう推進されなければならない。
- 4 スポーツは、スポーツを行う者の心身の健康の保持増進及び安全の確保が図られるよう推進されなければならない。
- 5 スポーツは、障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進されなければならない。
- 6 スポーツは、我が国のスポーツ選手（プロスポーツの選手を含む。以下同じ。）が国際競技大会（オリンピック競技大会、パラリンピック競技大会その他の国際的な規模のスポーツの競技会をいう。以下同じ。）又は全国的な規模のスポーツの競技会において優秀な成績を収めることができるよう、スポーツに関する競技水準（以下「競技水準」という。）の向上に資する諸施策相互の有機的な連携を図りつつ、効果的に推進されなければならない。
- 7 スポーツは、スポーツに係る国際的な交流及び貢献を推進することにより、国際相互理解の増進及び国際平和に寄与するものとなるよう推進されなければならない。
- 8 スポーツは、スポーツを行う者に対し、不当に差別的取扱いをせず、また、スポーツに関するあらゆる活動を公正かつ適切に実施することを旨として、ドーピングの防止の重要性に対する国民の認識を深めるなど、スポーツに対する国民の幅広い理解及び支援が得られるよう推進されなければならない。

盛岡・北上川ゴムボート川下り大会

申込艇数等の推移

回	年		申込艇数	申込者数	参加艇数	参加者数	参加率
1	S52	1977	30	60	30	60	100.0%
2	S53	1978	87	174	87	174	100.0%
3	S54	1979	134	268	134	268	100.0%
4	S55	1980	100	200	100	200	100.0%
5	S56	1981	120	240	120	240	100.0%
6	S57	1982	150	300	150	300	100.0%
7	S58	1983	115	230	115	230	100.0%
8	S59	1984	181	362	181	362	100.0%
9	S60	1985	216	432	216	432	100.0%
10	S61	1986	259	518	259	518	100.0%
11	S62	1987	388	776	388	776	100.0%
12	S63	1988	493	986	493	986	100.0%
13	H1	1989	932	1,864	932	1,864	100.0%
14	H2	1990	1,524	3,048	1,524	3,048	100.0%
15	H3	1991	2,002	4,004	2,002	4,004	100.0%
16	H4	1992	1,771	3,542	1,771	3,542	100.0%
17	H5	1993	1,792	3,584	1,792	3,584	100.0%
18	H6	1994	2,028	4,056	2,028	4,056	100.0%
19	H7	1995	1,907	3,814	1,909	3,818	100.1%
20	H8	1996	1,980	3,960	2,012	4,024	101.6%
21	H9	1997	1,905	3,810	1,743	3,486	91.5%
22	H10	1998	1,756	3,512	1,756	3,512	100.0%
23	H11	1999	1,591	3,182	1,585	3,170	99.6%
24	H12	2000	1,541	3,082	1,532	3,064	99.4%
25	H13	2001	1,276	2,552	1,226	2,452	96.1%
26	H14	2002	1,168	2,336	1,168	2,336	100.0%
27	H15	2003	1,109	2,218	1,109	2,218	100.0%
28	H16	2004	1,108	2,216	1,107	2,214	99.9%
29	H17	2005	1,066	2,132	1,041	2,082	97.7%
30	H18	2006	1,120	2,240	1,082	2,164	96.6%
31	H19	2007	1,138	2,276	1,109	2,218	97.5%
32	H20	2008	1,125	2,250	1,088	2,176	96.7%
33	H21	2009	1,168	2,336	1,132	2,264	96.9%
34	H22	2010	1,152	2,304	1,113	2,226	96.6%
35	H23	2011	816	1,632	801	1,602	98.2%
36	H24	2012	865	1,730	844	1,688	97.6%
37	H25	2013	877	1,754	778	1,556	88.7%
38	H26	2014	774	1,548	753	1,506	97.3%
39	H27	2015	875	1,750	853	1,706	97.5%
40	H28	2016	792	1,584	785	1,570	99.1%
41	H29	2017	847	1,694	-	-	-
42	H30	2018	776	1,552	762	1,524	98%
43	R1	2019	657	1,314	641	1,282	98%
44	R2	2020	0	0	0	0	-
45	R3	2021	0	0	0	0	-
46	R4	2022	413	826	388	776	94%

トピックス

平成 21 年（2009 年）7 月 26 日に開催した「第 33 回盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」において、ギネス・ワールド・レコーズ社に世界記録の申請を行い、記録認定を受けた。

【認定内容】タイムレース部門のスタートから 1 時間以内でスタートしたうちの「完走艇数」及び「完走者数」での認定。1,086 人・543 艇のボートが「Largest Raft Race」という新しいギネス記録を達成し、平成 22 年（2010 年）2 月 10 日に認定された。

平成 23 年（2011 年）8 月 20 日、スイスのベルンに記録を更新された（1,214 人、607 艇）。

平成 27 年（2015 年）7 月 26 日、完走艇数 814 艇、完走人数 1,628 人を達成。ギネス記録を奪還。

平成 29 年（2017 年）7 月 23 日、大雨による悪天候のため大会を中止した。

令和 2 年（2020 年）と令和 3 年（2021 年）新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

令和 4 年（2022 年）7 月 24 日、3 年ぶりに開催。

啄木の里ふれあいマラソン大会

昭和 59 年（1984 年）に 2 キロの周回コースで開催された「玉山村ロードレース大会」が、平成 3 年（1991 年）に「第 1 回啄木の里ふれあいマラソン大会」として開催され、令和 4 年度（2022 年度）で 32 回を数えます。

平成 8 年度（1996 年度）には啄木生誕 110 年記念大会として、ハーフ部門を新設。現在は、ハーフ、10 キロ、5 キロ、3 キロの 4 種目 8 部門（下表参照）で実施しています。

啄木の里ふれあいマラソン大会（合併後）

大会数	開催日	申込者数	参加者数	完走者	備考	ゲスト
16	H18. 9. 3	1,656 人	1,551 人	1,486 人	盛岡市・玉山村合併後初開催	エリック・ワイナイナ
17	H19. 9. 2	1,739 人	1,625 人	1,550 人		谷川真理
18	H20. 9. 7	1,827 人	1,716 人	1,610 人	うるま市(沖縄県)に選手派遣開始	ジュリアス・ギタヒ、浅利純子
19	H21. 9. 6	2,056 人	1,924 人	1,767 人		千葉真子
20	H22. 9. 5	2,050 人	1,922 人	1,870 人		森脇健児
21	H23. 9. 4	2,398 人	2,197 人	2,144 人		森脇健児
22	H24. 9. 4	2,532 人	2,360 人	2,216 人		湯田友美
23	H25. 9. 1	2,503 人	2,373 人	2,237 人		湯田友美、板山学
24	H26. 9. 7	2,565 人	2,377 人	2,275 人		湯田友美、板山学
25	H27. 9. 13	2,378 人	2,233 人	2,073 人		小林祐梨子
26	H28. 9. 4	2,581 人	2,269 人	2,092 人	盛岡市・玉山村合併10周年記念事業	土佐礼子
27	H29. 9. 10	2,255 人	2,088 人	1,819 人		那須川瑞穂
28	H30. 9. 9	2,016 人	1,855 人	1,653 人		那須川瑞穂
29	R1. 9. 1	2,086 人	1,976 人	1,828 人	文京区友好都市提携事業	酒井俊幸
30	中止	-	-	-	新型コロナウイルス感染症のため中止	
31	中止	1,348 人	-	-	新型コロナウイルス感染症のため中止	
32	R5. 9. 4	1,906 人	1,728 人	1,474 人	3年ぶりに大会を開催	酒井俊幸

啄木の里ふれあいマラソン大会の種目

種目	区分
3 キロ	小学 1～3 年男子
	小学 1～3 年女子
	小学 4～6 年男子
	小学 4～6 年女子
	中学生男子
	中学生女子
	家族ペア
5 キロ	一般男子（高校生以上）
	一般女子（高校生以上）
10 キロ	30 歳未満男子（高校生含む）
	30 歳代男子
	40 歳代男子
	50 歳代男子
	60 歳以上男子
	40 歳未満女子（高校生含む）
	40 歳以上女子
ハーフ	一般男子（高校生を除く 18 歳以上）
	一般女子（高校生を除く 18 歳以上）

いわて盛岡シティマラソン

第1回

開催日 (募集期間)	種目 (スタート～ゴール)	定員	申込数	出走数	完走数	出走率	完走率
R1. 10. 27(日) (H31. 3. 16～R1. 8. 18)	フルマラソン (岩手大学～市中央公園)	7,000人	7,018人	6,258人	5,729人	89.2%	91.5%
	ファンラン (岩手大学～市中央公園)	2,500人	2,717人	2,414人	2,410人	88.8%	99.8%
	ペアラン (岩手大学～市役所)	500人	592人	558人	558人	94.3%	100.0%
総参加者数		10,000人	10,327人	9,230人	8,697人	89.4%	94.2%

第2回 (オンラインマラソン)

開催期間 令和2年(2020年)10月1日(火)～10月31日(土)

申込期間 令和2年(2020年)9月1日(火)～9月20日(日)

参加者 3,114人(うち42.195km完走者 2,569人(82.5%))

参加賞 個人の総走行距離・順位入りオリジナルWEB完走証を贈呈。

完走者特別賞 42.195km完走者の中から、抽選で310名に盛岡市特産品、抽選で214名に協賛パートナー商品を贈呈した。

盛岡市特別賞 42.195km完走者全員に次年度フルマラソン参加料500円クーポンを配布した。

第3回 (オンラインマラソン)

開催期間 令和3年(2021年)9月24日(金)～10月24日(日)

申込期間 令和3年(2021年)7月3日(土)～9月16日(木)

参加者 896人(うち42.195km完走者 764人(85.3%))

参加賞 大会オリジナルマスク、オリジナルWEB完走証。

完走賞 42.195km完走者全員に、オリジナルフィニッシャータオルを贈呈した。

特別賞 42.195km完走者の中から、抽選で50名に盛岡市特産品、抽選で21名に協賛パートナー商品を贈呈した。

第4回

開催日 (募集期間)	種目 (スタート～ゴール)	定員	申込数	出走数	完走数	出走率	完走率
R4. 10. 23(日) (①R4. 4. 2～7. 31) (②R4. 8. 6～8. 31)	フルマラソン (盛岡城跡公園～市中央公園)	5,000人	4,218人	3,686人	3,415人	87.4%	92.6%
	男子		3,661人	3,199人	2,975人	87.4%	93.0%
	女子		557人	487人	440人	87.4%	90.3%
R4. 10. 23(日) (①R4. 4. 2～7. 31) (②R4. 8. 6～8. 31)	ファンラン (盛岡城跡公園～市中央公園)	500人	906人	788人	786人	87.0%	99.7%
	男子		515人	449人	447人	87.2%	99.6%
	女子		391人	339人	339人	86.7%	100.0%
R4. 10. 22(土) (R4. 7. 3～8. 31)	ジュニアチャレンジラン (タカヤアリーナ)	600人	453人	326人	323人	72.0%	99.1%
	1年生		103人	78人	78人	75.7%	100.0%
	2年生		103人	73人	73人	70.9%	100.0%
	3年生		69人	49人	47人	71.0%	95.9%
	4年生		93人	64人	64人	68.8%	100.0%
	5年生		46人	34人	33人	73.9%	97.1%
	6年生		38人	27人	27人	71.1%	100.0%
	障がい者		1人	1人	1人	100.0%	100.0%
総参加者数		6,100人	5,577人	4,800人	4,524人	86.1%	94.3%
R4. 7. 16～8. 14 (R4. 6. 4～7. 8)	オンラインマラソン	なし	471人	445人	-	94.5%	-
R4. 7. 2(土) (R4. 6. 8～6. 24)	ジュニアチャレンジラン プレランニング (盛岡南公園)	120人	66人	63人	63人	95.5%	100.0%

夜間照明施設の修繕履歴

夜間照明施設設置校

No.	学校名	設置年月	設置数	ランプ数	
1	下橋中学校	S52(1977). 9	6	48	LED化 (R1)
2	見前中学校	S52(1977). 9	6	53	LED化 (R2)
3	大新小学校	S54(1979). 10	9	72	PCB
4	飯岡中学校	S57(1982). 4	6	64	
5	下小路中学校	S58(1983). 10	9	82	LED化 (H30)
6	乙部中学校	S58(1983). 10	6	56	
7	松園中学校	S60(1985). 11	9	88	
8	大宮中学校	S63(1988). 3	10	96	PCB
9	高松小学校	H 2(1990). 10	15	60	PCB
10	巻堀中学校	H 3(1991). 10	4	72	使用不能中
11	城西中学校	H 5(1993). 4	5	50	
12	見前南中学校	H 5(1993). 11	9	72	
13	浜民小学校	H23(2011). 11	4	24	

【H24年度以降の修繕実績】

年度	修繕工事名称	学校名
H24	分電盤交換修繕	松園中学校
H25	分電盤等交換修繕	乙部中学校
H25	分電盤交換修繕	下小路中学校
H25	ブレーカー交換修繕	大新小学校
H25	カードリーダー交換修繕	巻堀中学校
H26	照明柱 A 及び照明柱 I 修繕	下小路中学校
H26	分電盤交換修繕	飯岡中学校
H26	照明盤スイッチ不良修繕	高松小学校
H26	照明盤修繕	下橋中学校
H27	夜間照明スイッチ改修	飯岡中学校
H27	夜間照明施設安定器等交換修繕	大宮中学校
H27	夜間照明施設安定器等交換修繕 その2	大宮中学校
H28	夜間照明漏電修繕	下橋中学校
H28	夜間照明漏電修理	高松小学校
H28	夜間照明施設修繕	松園中学校
H28	夜間照明操作盤改修	巻堀中学校
H29	夜間照明施設修繕	大新小学校
H29	夜間照明スイッチ等修繕	高松小学校
H29	夜間照明盤鍵修繕	見前中学校
H29	高圧気中開閉器修繕	巻堀中学校
H29	夜間照明施設投光器調製修繕	城西中学校
H30	夜間照明施設修繕	下小路中学校
H30	夜間照明コインBOX鍵取替	見前中学校
H30	夜間照明制御マグネット修繕	下小路中学校
R 1	夜間照明施設改修	下橋中学校
R 1	夜間照明用第2キュービクル修繕	大新小学校
R2	夜間照明施設改修	見前中学校
R3	夜間照明施設鳥獣対策修繕	松園中学校
R4	夜間照明施設ランプ修繕	松園中学校
R4	夜間照明施設操作盤修繕	大宮中学校
R4	夜間照明施設操作盤修繕	下小路中学校



盛岡市スポーツ推進計画

令和5年（2023年）3月

盛岡市交流推進部スポーツ推進課

〒020-8530 岩手県盛岡市内丸12番2号

TEL 019-651-4111（代表）／ 019-603-8013（直通）

盛岡市公式ホームページURL <https://www.city.morioka.iwate.jp/>

スポーツ推進課メールアドレス sports@city.morioka.iwate.jp